

お茶の水女子大学学報

平成10年7月1日
お茶の水女子大学庶務課

目次

◇学内規則	2
◎お茶の水女子大学名誉教授に関する規程の一部 を改正する規程	2
◎お茶の水女子大学教員の任期に関する規程	3
◇学 事	4
◎平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化 研究科（博士後期課程）学生募集要項	4
◎平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化 研究科（博士後期課程）外国人留学生募集要 項	27
◎平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化 研究科（博士前期課程）学生募集要項	37
◎平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化 研究科（博士前期課程）外国人留学生募集要 項	66
◎平成11年度お茶の水女子大学生活科学部第3年 次編入学学生募集要項	80
◇人 事	82

◇諸 報	86
◎名誉教授の称号授与	86
◎研 修	91
◎海外渡航	92
◎平成10年度科学研究費補助金配分決定一覧	93
◎公開講座	100
◎就職情報資料室の開設	103
◎生活科学部情報処理教室火入れ式	103
◎平成10年度福利厚生事業スケジュール	104
◇日 誌	105

学内規則

○平成10年お茶の水女子大学規則第15号

お茶の水女子大学名誉教授に関する規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成10年6月10日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学名誉教授に関する規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学名誉教授に関する規程（昭和27年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

第5条第1項中「学部（学部には所属しない施設を含む。以下同じ。）」を「部局（各学部、大学院人間文化研究科、ジェンダー研究センター、生活環境研究センター及び保健管理センターをいう。以下同じ。）」に、「当該学部」を「当該部局」に改め、同条第2項中「当該学部」を「当該部局」に、「全学部」を「全部局」に改める。

第8条第2項中「当該学部」を「当該部局の」に改める。

附 則

この規程は、平成10年6月10日から施行する。

○平成10年お茶の水女子大学規則第16号

お茶の水女子大学教員の任期に関する規程を次のように定める。

平成10年7月15日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学教員の任期に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号。以下「法」という。）第3条第1項の規定に基づき、お茶の水女子大学教員の任期について、必要な事項を定める。

(任期を定めて任用する教育研究組織等)

第2条 法第4条第1項第1号の規定に基づき任期を定めて任用を行う教員の教育研究組織、教員の職、任期として定める期間及び再任に関する事項は、次の表に掲げるとおりとする。

教育研究組織		教員の職	任期	再任に関する事項
部局名	専攻、学科、講座、研究部門等			
大学院人間文化研究科	全専攻の全講座	助手	3年	再任は不可

(同意)

第3条 任期を定めて教員を任用する場合には、任用される者の同意を得なければならない。

(その他)

第4条 この規程に定めるもののほか、教員の任期に関し必要な事項は、評議会の議を経て別に定める。

附 則

この規程は、平成10年7月15日から施行する。

学 事

○平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 (博士後期課程) 学生募集要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較文化学専攻	19名	実施しない	平成11年3月3日～5日
人間発達科学専攻	15名		
人間環境科学専攻	16名	平成10年9月21日～22日	
複合領域科学専攻	13名		

※ 募集人員には、進学者が含まれる。

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成11年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により修士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めたる者

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※	平成10年 8月25日（火）～8月28日（金）	平成11年 2月2日（火）～2月5日（金）
言語試験	9月21日（月）	3月3日（水）
口述試験	9月21日（月）～9月22日（火）	3月3日（水）～3月5日（金）
合格発表 ☆	10月2日（金）	3月12日（金）

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時（郵送の場合は、締切日までの消印有効）
持参の場合は、出願用封筒に書類を一括し、提出のこと。（後日、受験票等を送付する。）

☆ 12時頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2) 出願資格(5)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試 : 平成10年8月19日（水）～8月21日（金）

3月入試 : 平成11年1月25日（月）～1月27日（水）

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。（後日、試験日程等を送付する。）

4. 出願手続・試験時間割・試験場所・選考方法

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

5. 検定料、入学料及び授業料

検定料 30,000円 [平成10年9月・平成11年3月に本学人文科学研究科、
理学研究科、家政学研究科及び人間文化研究科博士
前期課程修了見込者は不要]

入学料 275,000円 [平成10年9月・平成11年3月に本学人文科学研究科、
理学研究科、家政学研究科及び人間文化研究科博士
前期課程修了見込者は不要]

授業料 469,200円(年額)

注1) 検定料については、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。
出願手続の際に納付すること。

注2) 出願資格(5)に該当する者についての検定料の納付手続は、本学からの出願資格認定
通知書を受理した日から一週間以内に行うこと。

6. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室(下記の電話番号)に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

7. 入学手続

- (1) 入学手続関係書類は、平成11年3月中旬に郵送する。なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

願書受付場所： お茶の水女子大学 人間文化研究科棟2階事務室

平成10年6月

お茶の水女子大学
〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5821~2

比較文化学専攻

1. 募集人員 19名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研究計画書	
	<p>6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	返信用封筒	本学所定の封筒（長形3号）に宛名を明記し360円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、14～16ページの比較文化学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。
(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成11年3月3日(水) 10:30～11:50	3月3日(水)13:30～ 4日(木)5日(金)10:00～
文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座 異文化交流論講座	英語・独語・仏語・中国語 から1言語を選択	主論文及び研究計画
科学文化論講座	英語	

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 発 達 科 学 専 攻

1. 募集人員 15名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	2部 ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。 あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、それを審査論文 （主論文）とすることができる。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。 提出論文は、試験終了時に返却する。	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に相当するものの要旨）	
	6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚以内（図表を含む。）におさめること。	
	研 究 計 画 書	
	6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒（長形3号）に宛名を明記し360円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、17～18ページの人間発達科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成11年3月3日(水) 10:30～11:50	3月3日(水)13:30～ 4日(木)5日(金)10:00～
発達基礎論講座 発達臨床論講座 発達社会環境論講座 ジェンダー論講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 環 境 科 学 専 攻

1. 募集人員 16名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修士論文等	
	A	B
	{ ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 }	{ 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 }
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 の概要を添付すること。（A4版用紙） 提出論文は、試験終了時に返却する。	6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 にまとめること。（A4版用紙） ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文（審査論文）の要旨	
	6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、 要旨は 日本語 2,000字程度 または 英語 800語程度 で A4版用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1, 000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせておくことが望ましい。講座代表教官については、19～21ページの人間環境科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30～11:50	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
相関生命科学講座 生活システム科学講座 食環境科学講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

複 合 領 域 科 学 専 攻

1. 募集人員 13名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了(見込)証明書	
3	修士論文等	
	A	B
	(①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者)	(修士課程に在学し9月試験を 受験する者)
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 の概要を添付すること。(A4版用紙) 提出論文は、試験終了時に返却する。	6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 にまとめること。(A4版用紙) ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文(審査論文)の要旨	
	6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、 要旨は 日本語 2,000字程度 または 英語 800語程度 でA4版用紙3枚以内(図表を含む)におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1,000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、22～23ページの複合領域科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願用封筒に書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

(出願期間締切日までの消印有効)

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【口述試験】
試験日時	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	主論文及び研究計画

注1) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。

平成11年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較文化学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻	合計
入学定員	19	15	16	13	63

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較文化学専攻	文化構造論	文化構造の基礎理論と比較の原理・原論の探求を行うとともに、東洋文化と西洋文化それぞれの要素特質を究明して東西文化の対比対照的考察・交流・交渉関係の解明を行う。具体的実証的の東西比較研究と並行して文化一般の構造・機能の本質に迫り、比較文化理論の樹立を目指す。
	日本文化論	日本文学を中心とする日本文化の歴史的・思想的・社会的展開を解明する。すなわち、まず、文学を対象とする研究領域から、歴史・思想・社会・人間関係などの各研究領域を併せて総合的に、日本文化の基本の探求を指向する。
	言語文化論	言語による文化—諸国語の文学を、その言語表現に留意しつつ比較対照し、あるいは、その相互影響の跡をたどって、より大きいパースペクティブの中での文学理論を目指す。また、言語の比較対照によって各国語の特質を究明する。
	比較芸術論	芸術の諸分野における歴史的、地域的比較を行うとともに、各分野相互の比較を、単に現象面のみならず、精神面、機能面からも有機的に行い、芸術的創造ないし表現の本質を究明することを目的とする。

	専攻名	講座名	要旨
比較文化学専攻		比較社会構造論	東洋・西洋の各地域の文化を社会構造の面からとらえる。すなわち、社会構造、その変動過程、あるいは諸社会の接触交流について、歴史学・地理学・文化人類学など諸科学の視角から具体的にとらえるとともに、これを総合的に比較研究し、さらにこれに基づいて日本の社会構造及び文化構造の基本的性格を解明する。
		科学文化論	比較文化学の一環として科学基礎論並びに科学史の研究を行うとともに、人間文化の諸領域に内在する数理的構造を数学的、情報科学的に研究し、個別文化をつらぬく普遍的な文化構造の解明を目指す。
		異文化交流論	国際化の急速な拡大に伴って生じた異民族・異文化相互の受容・学習・共生といった現実的課題を専門的かつ総合的に研究する。特に異文化の伝達と交流に関して、社会生活面を重視したアプローチと異言語学習の理論的な探究を軸に、文化的、歴史的、異文化教育的研究を進め、新しい観点と国際的視野に立つ日本学（Japanology）の創造を目指す。
人間発達科学専攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達基礎論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特質も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達臨床論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達社会環境論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェンダー論	ジェンダー研究は性別概念が社会的・文化的に構築されたものであるとの理論的見解をもとに、ジェンダーに関わる諸問題を実証的政策的に検討するものである。さらに現存する性差別ジェンダー格差、エンパワーメントに関わる理論的・実践的課題を究明する。ジェンダー研究の成果は近年提唱されている男女共同参画社会の実現への支柱となる。

	専攻名	講座名	要旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	相関生命科学	生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
		生活システム科学	生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。
		食環境科学	老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をマイクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点をを用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、マイクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

担当教育及び主な授業科目

【比較文化学専攻】

電話番号 03-5978-(0000)

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
文化構造論	構造分析	教授:天野正子 ☎(5171)	社会学(社会集団論, ジェンダー・スタディーズ) 学校・家庭・職場・政治領域でジェンダー関係が構成されていく過程に関する社会学的研究、及びボランティア・アクションをフィルターに市民社会と個の関係を探る研究。
	比較文化論	教授:羽入佐和子 ☎(5166)	哲学・比較思想 哲学的思考法や概念は文化の違いを越えられるか、また、哲学では人間はどのように位置づけられるかに関心がある。具体的には、近代以降のドイツ哲学における存在論・人間論の分析、及び比較思想の方法をテーマとする。
	東洋文化論	※助教授:宮尾正樹 ☎(5216)	中国現代文学 民国初年(清末も含む)から現代に至るまでの中国文学を、主として文学言語の姿容という観点から検討する。また、女性、学校、革命等の様々な小説の文学における現れについても考える。
	西洋文化論	教授:中村弓子 ☎(5241)	現代フランス思想及び文学 思想においては特にベルクソンを中心とする生命と二元論の問題の研究。文学においては、特にキリスト教との関わりに興味を持つ。
	文化類型論	教授:高島元洋 ☎(5167)	日本倫理思想史 倫理の問題を行為のもとである存在と捉え、これが日本思想においていかに考えられていたかに関心がある。具体的な試みとしては、他界と超越的なものを介して、人間の関係を再構成することを考える。
	文化変動論	教授:波平恵美子 ☎(5251)	文化人類学 性、加齢、病氣といった人間の身体に生じる普遍的現象に対して人間は多様な文化的意味づけを行ってきた。文化と病氣および文化と性をテーマとし、また文化の変化がその領域でどのように現れるかを研究する。
	文化基礎論	教授:土屋賢二 ☎(5165)	人間学 人間が哲学的問題を立てるのはなぜか、その問題の性質は何か、に関心がある。最も哲学の問題になりやすい心理的概念の研究が目下の課題。そのために言語分析の方法が有効だと考えている。
日本文化論	古代文学論	教授:平野由紀子 ☎(5200)	平安朝文学 特に古今から拾遺に至る時期の勅撰集および私家集研究。物語・仮名日記類・歌物語を生み出してゆく平安貴族社会におけるコミュニケーションの具としての和歌の機能に関心がある。
	中世文学論	○教授:三木紀人 ☎(5199)	中世日本文学 特に鎌倉時代の隨筆・日記など自照文学、説話文学を中心に知識人(例えば、長明・無住・兼好など)の生き方とその所産に興味を持つ。
	近代文学論	助教授:大塚常樹 ☎(5206)	近現代詩歌及び20世紀前半の日本文学 これまでの研究対象は、宮沢賢治を中心に、朔太郎、光岡、中世等の詩人と、梶井基次郎。演習では、芥川、川端、堀、太宰等も扱います。私の目指す研究方法は、表現構造(レトリックやプロット、トポス等)の分析と、文化的社会的時代背景による裏付けです(人生論的な作家論は扱いません)。従って指導学生には、テキスト論等の表現論の意欲的な学習と、様々な時代資料の綿密な調査を要求しています。
	日本文化思想	※教授:小風秀雅 ☎(5179)	日本近代史 政治史、経済史、思想史的分野を中心に、日本の近代化の特徴を、欧米及び東アジアとの比較によって、明らかにするところに主たる関心がある。
	日本文化起源論	教授:安田次郎 ☎(5178)	日本中世史 平安末期から戦国期までの社会構造。荘園制の成立・発展・解体、土地所有の在り方、貴族社会と寺院社会の関係、寺院構造、中世都市などに関心がある。
	日本文化発達論	教授:市古夏生 ☎(5205)	日本近世文学 江戸時代の小説・和歌・俳諧などの研究。特に仮名草子・浮世草子における諸問題、近世の特色である出版文化に関する問題について関心を持つ。
	日本語教育論	教授:岩崎千鶴 ☎(5201)	日本上代文学 ことばに着目しつつ奈良時代までの作品の諸問題を研究。神話・歌謡・和歌など、古代文学諸ジャンルの生成と展開の機相に関心をもつ。
言語文化論	比較語彙論	教授:宮川幸久 ☎(5225)	英語学 文法理論、特に語群の構造と種別に関する諸問題。いわゆる文体論のうち、文を超えた文章の成立過程と構造についても関心がある。
	表現構造論	助教授:内田正子 ☎(5229)	18~19世紀イギリス文学 特に現代に至るイギリス小説の変容を跡づけること。さらに社会における文学のはたらきを、いわゆる文学的テキストの枠を超えて考察していきたい。
	言語構造論	教授:海老根静江 ☎(5255)	アメリカ文学及び文学理論 19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパとも関係の深い小説家(ヘンリー・ジェイムズ)、詩人(ウォレス・ステューヴンズ)ディコンストラクションを中心とする批評理論等。
	日独比較言語文化論	教授:石丸昭二 ☎(5235)	20世紀ドイツ・オーストリア文学 主として世紀転換期以後の小説。具体的にはカフカ、ムージル、ホーフマンスタール、シュニッツラーの小説の構造分析と小説理論。関連してドイツ文学におけるユダヤ思想にも関心を広げている。
	日仏比較言語文化論	助教授:中村俊直 ☎(5239)	現代フランス文学 ヴァレリーを中心として19、20世紀の詩人(マラルメやアポリネール)や20世紀の小説家(ジッドやブルースト)を研究している。現代言語思想や近代日本におけるフランス文学の受容にも関心がある。
	対照言語論	教授:相原茂 ☎(5218)	現代中国語学 現代中国語の文法論が主要研究テーマ。漢語語彙の構造や意味論にも関心がある。日中対照研究や誤用分析も手がけている。
	比較文学論	※教授:鈴木泰 ☎(5202)	国語学・日本語学 古代日本語を中心にテンス・アスペクト体系、及びエヴィデンシャルティーの問題について、その変遷を考えている。

【比較文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
比較芸術論	比較舞踊論	教授：片岡康子 ☎(5263)	舞踊学 現代舞踊作家と作品の研究。文献とともに作品映像を用いて、現代舞踊の多様な表現方法を探ることを試みている。また日本における西洋芸術(舞踊)の模倣・折衷・創造の過程にも関心を持っている。
	比較音楽論	教授：遠藤秀一郎 ☎(5278)	ピアノ演奏学 実践の重要性と耳を養う必要性を考える。様式による基礎概念、個々の音色の差異、音響と想像、効果、呼吸など記譜されていないものに関心を持つ。演奏解釈論及び作品実践研究。
	東洋芸術論	助教授：徳井淑子 ☎(5802)	西洋服飾論 西洋の服飾文化をとりあげ、色彩や、デザイン、文様、モードなどについて美学・美術史的に考察するとともに、服飾もつ象徴性・記号性を文学や美術作品にそくして歴史的、社会的に分析し、美意識の問題にも論及する。
	比較造形論	※教授：秋山光文 ☎(5169)	美術史学 古代インドを中心に、仏教美術に関する調査・研究を主な専攻領域としている。特に仏教説話図像の生成と展開について、インドから周辺の仏教文化圏への伝播と、典拠となるテキストとの相関に関心をもつ。
	西洋造形論	教授：板倉寿郎 ☎(5796)	美学 服飾を含む造形論分野における表現性の構造及び意味。ヨーロッパ中世及び今日における諸問題に関心を持つ。
	比較民族音楽論	教授：徳丸吉彦 ☎(5281)	音楽行動の研究 特に人間が音楽を認知する仕組みについて、異なる文化を比較。三味線音楽を目下の対象とするが、文献とともに口頭伝承を扱う。ほかに、アジアにおける音楽研究を盛んにすることに関心を持つ。
	生活芸術論	○教授：小池三枝 ☎(5798)	日本服飾史 服飾美学 文学作品や絵画の中の服飾を通して日本人の美意識を追求する。近世文学や浮世絵などによって「いき」の美感をとらえ、漱石その他の近代文学によって「ハイカラ」とその周辺の意識を探る。
比較社会構造論	東洋社会論	教授：窪添慶文 ☎(5176)	中国古代史 魏晉南北朝時代を特色づける貴族を生みかつ支えた社会政治的構造の研究。異民族による中国支配、中国を中心とする国際関係にも興味を持っている。
	西洋社会論	教授：石川宏 ☎(5238)	19・20世紀フランス文学 大革命以後第2次大戦に至る、フランス社会の動向と文学者の保わりの問題に関心がある。個別的作家としてはスタンダールやバルザック、またベルナノスやモーリヤックなど。
	比較社会論	教授：山本秀行 ☎(5180)	ドイツ現代史 ドイツ革命とナチズム体制が主要な研究対象。これに関連してヨーロッパの民族、女性などの社会史、それと近代国家とのかわりに関心がある。
	地域生態論	※助教授：栗原尚子 ☎(5189)	社会地理学 現代社会に顕著な空間的不平等をその社会に固有な空間構造の形成との関連で分析し、そのような空間構造が多様な社会集団によってどのように知覚されているのかを明らかにする。
	比較地域論	教授：内藤博夫 ☎(5190)	経済地理学 地域レベルにおける産業構造の転換と労働市場および土地利用の変化を考察。日本を中心として、米英両国との比較も試みる。
	社会構造発達史	助教授：三浦徹 ☎(5184)	アラブ・イスラム史 アラブ・イスラム都市の形態的・社会的特徴について、歴史資料と現地調査を併用し、比較史の観点から検討する。主たる対象は、中世のエジプトとシリア。
	日本社会論	○教授：大口勇次郎 ☎(5182)	日本近世史 江戸時代社会の歴史的検討を通じて日本人の行動原理の伝統的パターンを考える。とくに女性が政治的にも文化的にも長期にわたって歴史の表層に登場することがない社会の構造を、ジェンダーの視点から検討したい。
科学文化論	科学史	助教授：今井正幸 ☎(5316)	複雑系の構造相転移 複雑液体(高分子・液晶・生体物質)の秩序化過程をX線・中性子・光を用いた散乱実験およびプローブ顕微鏡を用いて解明する。
	構造数理論	教授：渡辺ヒサ子 ☎(5298)	ポテンシャル論 2階の線形偏微分方程式の解の作る関数空間の構造と解の境界挙動の研究。非線形偏微分方程式や最適化問題にも興味をもつ。
	言語数理論	教授：笠原勇二 ☎(5385)	確率論 時間と共に変動する偶然量を数学的に定式化したものが確率過程である。さまざまな確率過程について、その特徴付けや性質を調べる。またそれらを用いて多様な経済現象や物理現象の解析への応用をはかる。
	構造認識論	※教授：細矢治夫 ☎(5884)	理論化学・情報化学 分子や結晶の構造と諸性質の理論的研究。物質の構造に限らず、種々の情報の構造の情報科学的解析にも関心がある。グラフ理論や組み合わせ理論の化学や物理学への応用も手がけている。
	情報処理論	助教授：森義仁 ☎(5346)	非線形物質科学 自然界で営まれる生命現象やさまざまな物質による複雑な情報伝達の機構を物質科学の視点からシステムダイナミクスとして捉え、多次元情報や非線形情報の伝達に関する総合的理解を目標とする。
	確率情報論	教授：竹尾富貴子 ☎(5380)	情報数学 フラクタルの数理及びカオス力学系の研究。この解明のため符号力学系や図形の表現などコンピュータを併用して研究する。これらに関連して、確率過程や次元・測度及びエルゴード理論にも関心がある。
	科学基礎論	助教授：横川光司 ☎(5357)	代数幾何学 代数多様体上のベクトル束のモジュラス多様体を研究している。代数幾何学の整数論、物理と関係した分野にも興味があり、その関連で正標数の代数幾何、D加群とベクトル束の対応なども扱っている。

【比較文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
異文化交流論	国際日本学	助教授：岡崎 暁 ☐ (5213)	日本語教育学 第二言語習得に関わる諸要因を明らかにすると同時に、そうしたことに踏まえた日本語教育の方法論を原論と各論に分けて構築する。
	日本語教育方法論	教授：長友和彦 ☐ (5215)	日本語教育方法論 日本語教育の基礎となる日本語学・言語習得研究及び心理学等の関連領域の研究成果に基づいた（シラバスデザイン、教授法を含む）日本語教育方法論の確立を目指す。
	日本語生活論	助教授：村松賢一 ☐ (5254)	日本語音声表現論 日本語話しことばの韻律的研究。特に改まった場面の発話のイントネーションや構文、文体が、聞き手や場の条件変化とどのような関係があるかに関心がある。
	第二言語習得論	教授：西尾道子 ☐ (5224)	言語コミュニケーション論 母語の習得は、特別な訓練なしに行われる。しかし、第2言語については、その使用（運用）能力を上げることは容易ではない。第2言語の習得を実証的・理論的に研究している。
	文化交流発達論	教授：藤原正彦 ☐ (5297)	数論 多変数多項式が数体、有限体、局所体などの中で定義する図形の算術的研究。また、人間における論理と情緒の仕組み、言語獲得などにも興味をもつ。
	アジア文化論	教授：石黒節子 ☐ (5267)	舞踊とコミュニケーション 芸術としての舞踊の創造や上演の際の、動きのつながり方や演じる意識を介して作者・演者・観客の関係を考察する。日本人の美意識といわれる「型」とか「間」に関心がある。

注1) ○を付している教官は、平成12年度末をもって退官する予定である。

注2) ※を付している教官は、講座代表である。

【人間発達科学専攻】

電話番号 03-5978-(0000)

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
発達基礎論	発達基礎論	教授：内藤俊史 ☎(2558)	道徳性の発達 生涯を通じて、道徳性や価値観がどのように形成されるのか、または発達するのかという問題。道徳教育と発達理論との関係、さらにアジア諸文化における道徳性の比較研究にも関心をもつ。
	比較教育思想史論	※教授：上野浩道 ☎(5243)	教育思想 認識の教育と感情の教育の関係と構造に関心をもつ。教育作用にみられるシンボル、イメージ、感情、表現といった問題を歴史、原理、実践のレベルから整理し、教育の目的と構造の研究を行う。
	初期発達論	教授：無藤隆 ☎(5782)	発達心理学、保育学 主に、幼児から小学生の頃の人間関係、例えば、家族関係、友だち関係、子どもと教師との関係の観察研究を行っている。また、子どもと身近な環境との関わりを検討している。
	認知発達論	教授：内田伸子 ☎(5259)	発達心理学・認知心理学 言語と認識の発達に関する諸問題に主たる関心がある。特にディスコースの生成とそれを支える基礎的な認知メカニズムの発達についての実証的研究を行なっている。
	比較行動発達論	講師：柴坂寿子 ☎(5771)	人間行動学 比較行動学の問題設定・方法論に基づいた人間行動の研究。主に幼稚園児のクラス集団における人間関係の動態とコミュニケーションについて観察研究を行っている。
	発達システム論	助教授：石口彰 ☎(5262)	認知心理学 視覚を中心とした人間の感性能力の研究が専門である。3次元視空間の認知やその感性的評価、あるいは創造性や感性表現などに及ぼす心理学的・生物学的・発達の・比較文化的要因を検討する。
	人格システム論	助教授：伊藤美奈子 ☎(5773)	学校臨床心理学 学校現場をめぐる子どもの心の問題と、それに対する臨床的対応についての実証的研究。 発達心理学(青年心理学) 青年期から成人期にかけての人格形成についての実証的研究
発達臨床論	心理発達臨床論	◎教授：春日 喬 ☎(5258)	臨床心理学 精神病理形成の心理生理学的メカニズムに関する研究。 対人知覚、コミュニケーションと精神病理及びその治療モデルに関心を持つ。 また、人格発達と家族病理学も主要関連領域の一つ。
	青少年臨床論	※教授：楡木満生 ☎(5785)	心理臨床学 人間と人間との出会いにおいて相互主観的に事象を把握し、心理臨床の場を通じて帰納的論理を進める。そのために、人と人が関わることによって変化する法則性や原理に関心を持っている。
	人間関係論	教授：黒田淑子 ☎(5775)	人間関係学 日常生活における人間知を関係的、動態的に探究すること。人間関係構造のかかわり分析、自立と共存のネットワーク、ドラマ・心理劇の活用、個人療法・集団療法によるカウンセリングなどに関心がある。
	教育臨床論	助教授：酒井 朗 ☎(5247)	教育臨床論、青少年指導・文化論 主に民族誌的な方法を用いて、学校内部の相互作用過程や教師、生徒自身の意味世界の分析を課題としている。また、教育的指導にかかわる諸言説の社会的構成過程の分析や学校組織論、生徒文化論、などについても研究を進めている。
	障害臨床論	(助教授：田代和美) ☎(5780)	保育臨床学 臨床的な視点から保育における事象を検討する。具体的には保育者と子ども間、保育者の連携および成長、保育環境等を歴史的経緯を踏まえた上で保育現場でのフィールドワークを基に検討する。
	保育臨床論	助教授：田代和美 ☎(5780)	保育臨床学 臨床的な視点から保育における事象を検討する。具体的には保育者と子ども間、保育者の連携および成長、保育環境等を歴史的経緯を踏まえた上で保育現場でのフィールドワークを基に検討する。
	社会福祉論	助教授：平岡公一 ☎(5246)	社会政策論、社会福祉(特に高齢者福祉) 社会政策(所得保障・医療保障・社会福祉・住宅政策等)、とりわけ高齢者福祉政策の理論的・実証的・政策科学的研究、および社会的観点からの福祉国家研究を行っている。

【人間発達科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
発達社会環境論	教育方法論	※教授：宮原 修 ☎(5249)	教育方法学 学校教育が用意する教育方法・教育課程が人間(子ども)の発達にどのような影響を及ぼすかに主な関心がある。言語・非言語コミュニケーションの分析を中心に授業研究に取り組む。日英の比較研究も行う。
	教育組織論	教授：耳塚寛明 ☎(5245)	教育社会学 学校教育の選抜・配分機能について、(1)教育選抜と社会階層、(2)学校組織・文化と選抜過程、(3)教育選抜の帰結(階層再生産や学歴社会形成)をテーマとした、理論的・実証的研究を進めている。
	比較教育文化史論	助教授：駒込 武 ☎(5248)	植民地教育史、アジア近代史 戦前期の日本による台湾・朝鮮・「満州国」支配を主に教育政策に即して研究している。また、欧米の宣教師たちの活動を射程に入れることで、日本-アジア-欧米の「文化交流」(あるいは文化支配)の歴史を考えている。
	教育行財政論	助教授：米田俊彦 ☎(2554)	教育行財政学 近代日本の教育制度の変遷、あるいは教育制度改革をめぐる論議や意思決定過程を対象とする制度・政策史研究や、制度・政策の浸透ないし実現過程の分析としての実証史研究を進めている。
	生活者環境論	○助教授：犬塚伝也 ☎(5794)	生活者環境論 生活者・消費者の観点から、環境としての企業・行政との関係を消費生活等の視点により研究し、その発達への影響の解明を目指す。
	生涯学習論	(未定)	
	博物館学習論	教授：廣野光行 ☎(5255)	博物館学・考古学 遺跡を保存し、活用する場、すなわち考古学の成果を呈示する場としての博物館、また社会教育機関として人が自ら学ぶ場としての博物館の活動に関心を持っている。
	家族変容論	教授：袖井孝子 ☎(5790)	家族社会学 女性の地位および役割がライフステージ、社会、文化によってどのように異なるかに関心を持つ。とくに女性の家族内役割をジェンダー論の立場から、理論的実証的に明らかにしたい。
比較家族環境論	(教授：牧野カツコ) ☎(5792)	家族社会学・家族関係学 家族構造、家族関係の動態を社会・経済的变化との関連でとらえる。時代的な変化と個人のライフコースにおける動態変化を含む。最近では父親の役割や家族とジェンダーを研究テーマとしている。	
ジェンダー論	ジェンダー史論	教授：館 かのる ☎(5844)	女性学・ジェンダー研究 ジェンダー概念の検討。近代日本社会を中心とする社会制度上の構造と個々人の規範意識形成のメカニズムについて、ジェンダーの視点から検討する。
	家族論	教授：牧野カツコ ☎(5792)	家族社会学・家族関係学 家族構造、家族関係の動態を社会・経済的变化との関連でとらえる。時代的な変化と個人のライフコースにおける動態変化を含む。最近では父親の役割や家族とジェンダーを研究テーマとしている。
	男女平等政策論	非常勤講師：金城清子 (津田塾大学：教授)	男女平等政策論 女性の地位及び役割がライフステージ、社会、文化によってどのように変容するかを、男女平等政策との関係で、理論的・実証的に検討、解明する。また、近年の男女平等参画に対する政策について国際比較の視点から分析する。
	国際女性開発論	◎教授：原 ひろ子 ☎(5843)	ジェンダーの比較文化的考察 諸文化における男性のあり方と女性のあり方の変容を経時的・比較文化的に考察する方法を検討する。特に諸国・地域における開発とジェンダー、女性と開発などの開発プロジェクトのもたらす影響をジェンダー論的に検討する。
	地域開発論	助教授：熊谷圭知 ☎(5191)	社会文化地理学、東南アジア・オセアニア地域研究 特に、1)第三世界の都市-農村関係と人口移動、2)パプアニューギニアにおける近代化過程と社会・文化変容、3)地域研究とフィールドワークの方法論、等に関心があります。
	地域開発政策論	助教授：水野 聡 ☎(5188)	数理地理学、経済地理学 近年の輸送・通信手段の発達、諸産業の新たな中心・周辺関係の生成をもたらしている。この現象を理解するために、古典的立地論を自己組織化論の考えから捉え直している。
	労働論	(未定)	
	生活経済論特論	※助教授：御船美智子 ☎(5788)	生活経済学、家庭経済学 経済社会と生活の関わりを家庭・家計を媒介に理論的・実証的に解明する。近現代日本の家庭経済史、家族内経済関係、家庭経済政策、家庭経済の国際比較(主に中国)、女性と財産について検討する。
	社会保障論	客員助教授：金子能宏 (国立社会保障・人口問題研究所)	社会保障論 社会保障は社会の変化に伴い、思想も制度も変化せざるをえない。制度発足時点には考慮されていなかったジェンダーの視点を取り入れた経済学や社会学を応用して、社会保障制度を再検討する。
	人口論	客員教授：高橋重郷 (国立社会保障・人口問題研究所)	人口論 人口は社会問題を考える基礎である。人口変動をもたらす要因には女性と男性の意識変化が重要に関係している。従来の人口論にはなかったジェンダーの視点を取り入れることにより、新たな政策を誘発する。
家族政策論	客員教授：西岡八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)	家族政策論 家族形成は種々の政策によって影響を受ける。近年、社会保障制度は家族政策との関連を強めており、その背後には家族の変容がある。特に女性の社会参加が進んでいる折からジェンダー視点を取り入れた家族政策論を展開する。	

注1) ◎を付している教官は平成11年度末、○を付している教官は平成12年度末をもって退官する予定である。
注2) ※を付している教官は、講座代表である。

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
関連生命科学	分子細胞運動	教授:馬場昭次 ☎(5714)	動物生理学 細胞運動、特に鞭毛・繊毛運動の生理学的研究。ウニの精子の鞭毛、幼生の繊毛の運動を、高速度ビデオや高解像度フィルムに記録し、画像解析することで運動の仕組みを研究している。ゾウリムシの重力受容・機械刺激受容の研究。 e-mail: baba@cc.ocha.ac.jp
	生体高分子科学	助教授:小川温子 ☎(5343)	生物化学 複合糖質(糖タンパク質、多糖、糖脂質)および糖認識分子(酵素、抗体、レクチンなど)の構造、機能と作用機構。花粉をはじめとする環境中のさまざまなアレルギーの構造と、糖鎖の抗原性にも着目している。 e-mail: hogawa@cc.ocha.ac.jp
	代謝制御学	教授:戸原 坦 ☎(5358) ☎(5293)	植物生理学 植物の基本的な代謝経路(プリン代謝、糖代謝など)の調節機構を主に細胞および分子レベルで解明している。代謝の環境応答に関して、耐塩性のマングローブ植物やリン酸飢餓培養細胞にみられる代謝特性に関する研究も行っている。 e-mail: ashihara@cc.ocha.ac.jp
	バイオサイエンス論	助教授:林 正男 ☎(5364)	分子細胞情報及びバイオ政治学 動物細胞の細胞接着にかかわるタンパク質の構造、機能、遺伝子レベルでの情報制御。バイオサイエンスやバイオテクノロジーの研究動向、政策、倫理、研究文化の国際調査研究。現代科学技術社会の望ましい姿の研究。 e-mail: masa@cc.ocha.ac.jp
	生態環境応答	講師:作田正明 ☎(5712)	植物の環境応答 動くことがせず、環境の変化に直接曝される植物では、独特の環境応答機構が存在する。この機構の中心となる防御遺伝子の発現(転写)調節について、生化学・分子生物学的側面より解析を行っている。e-mail: msakuta@cc.ocha.ac.jp
	生体分子認識学	教授:松本 勲武 ☎(5342)	生化学 グリコバイオロジー(糖が関与する分子生物学)、特に動植物レクチンの構造と機能に関する研究。生物の体を構成する種々の生体分子間における親和・反応、会合・解離、集合・離散の機構に興味を持つ。 e-mail: isamu@hososipc.chem.ocha.ac.jp
	分子遺伝情報	教授:松浦悦子 ☎(5377)	分子遺伝学 オルガネラ独自の遺伝子系の研究。ゲノムの構造や遺伝子発現、及びその進化をとりあげている。核ゲノムの遺伝子系との相互作用にも着目している。 e-mail: etatsu@cc.ocha.ac.jp
	情報分子機能学	※教授:室伏きみ子 ☎(5362)	細胞生化学 細胞のストレス応答と、増殖制御のメカニズムを追っている。細胞が、外界からのストレスや正・負の増殖刺激を受け取る機構や、それらの刺激を伝達していく仕組み、さらに刺激に対応して引き金を引かれる種々の化学反応のメカニズムを明らかにすることを目的として、異なった観点からのアプローチを試みている。 e-mail: murofush@cc.ocha.ac.jp
	構造植物科学	教授:山下貴司 ☎(5374)	構造植物科学 各種植物群に特有な器官や組織の構造がどのようにして発現されるのかという問いに対し、形態形成と組織発生の規則性を解析することによってアプローチする。構造と自然環境との関係についても論ずる。e-mail: yamashit@cc.ocha.ac.jp
	発生機構学	講師:清本正人 ☎(0470-29-0838)	発生生物学 棘皮動物を材料に、初期発生における細胞の分化や形態形成のメカニズムを明らかにする。具体的には、ウニ胚の骨片形成細胞の分化における誘導因子や細胞間の相互作用について、培養系を使って研究している。 e-mail: tshoshi@awa.or.jp
	細胞・発生生物学	助教授:千葉和義 ☎(5370)	細胞・発生生物学 発生・分化の分子機構について、細胞生物学的見地から考察する。特に減数分裂や受精、初期発生過程において、細胞外の情報がどのように細胞内に伝達され、発生が制御されているのかについて論ずる。 e-mail: kchiba@cc.ocha.ac.jp
	細胞膜機能学	助教授:小林哲幸 ☎(2604)	生体膜生化学 刺激の伝達・分泌・輸送・ストレス応答など多彩な細胞機能が営まれる場である生体膜について、その機能を担うタンパク質や脂質の代謝・動態を生化学的に解析し、機能発現の機構を明らかにする。 e-mail: tetkoba@cc.ocha.ac.jp
	植物生理学	非常勤講師:福田裕穂 (東京大学:教授)	植物生理学 植物のもつ多様な同化作用を反応回路学的、酵素化学的、分子遺伝学的に解き明かし体系付ける。また、これによって、人類にとっての有用物質の生産、効率の高い食料源の確保へ向けての植物工学にも基礎を与える。
	生態環境科学	助教授:杉谷 隆 ☎(5193)	自然地理学 自然史科学を基礎としながら、現代の環境問題を地域住民の生業活動や市民運動を通してみることによって、社会科学との複合的解明を目指している。また、住民の環境認識という哲学的問題にも関心がある。 e-mail: sugitani@cc.ocha.ac.jp
	分子細胞機能	非常勤講師:浅島 誠 (東京大学:教授)	分子細胞機能 細胞が生命体としてそなえる高度な機能を、分子科学的視点でとらえ基本素子及び素過程に分解・分析することで解明する。さらに、これらをもとに機能的再構成系を構築しその挙動を評価することによって、細胞の多様な機能を統合的に理解する。
生体防御システム	客員教授:鈴木明身 (東京聖隷臨床医学総合研究所) ☎03-3823-2101内5483	生体防御システム 細胞やウイルスなどの病原体の侵入、器官や組織における癌細胞の出現などの自己の存続を脅かす危険な要因を監視し、これを取り除くように働く免疫ネットワークの役割を、分子生物学的、細胞生物学的に理解する。 e-mail: asuzuki@rinshoken.or.jp	
中枢神経科学	客員助教授:梅田真郷 (東京聖隷臨床医学総合研究所) ☎03-3823-2101内5419	中枢神経科学 生体の恒常性は視床下部を始めとする中枢神経系と内分泌系などの他のシステムが協調することにより維持されている。このような精密かつ微妙な連携をもって動いている身体の各器官の統合が、いかになされているか神経科学的に解析する。現在は、体温の調節機構を分子レベルで明かにすべく研究を進めている。 e-mail: umeda@rinshoken.or.jp	
ソナル伝達機構	客員教授:川喜田 正夫 (東京聖隷臨床医学総合研究所) ☎03-3823-2101内5285	ウイルスの分子生物学 ウイルス増殖の進行および抑制に関わる宿主細胞因子の分子遺伝学、分子細胞生物学的解析を通じて、恒常性維持システムの機能と制御機構を解明する。 e-mail: kawakita@rinshoken.or.jp	

【人間環境科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
生活システム科学	進化・多様性	教授：石和貞男 ☎(5371)	<u>遺伝学</u> 生物集団の遺伝的多様性の維持や種分化の機構に関する問題。また、生物進化に伴い新しい遺伝子情報がどのように形成されて来たかを、形態形成や脳神経・行動系などの遺伝子について研究する。ヒトの原型をハエのDNAに垣間見る楽しさが、“新しい進化遺伝学”の魅力。
	多細胞体形成	教授：根本心一 ☎(5369)	<u>発生生物学</u> 多細胞体形成過程である個体発生に関する細胞・分子レベルからの研究。卵が発生可能な能力を獲得する機構と、その過程で起る出来事と受精及びその後の過程における出来事との関係に注目している。
	環境計測科学	(教授：駒城素子) ☎(5725)	<u>環境計測科学</u> 自然の営みに影響を与える、人間活動の生み出す汚染物質について、大気水圏、地圏環境における分布、消長とそのメカニズムを探る。
	生理人類学	※教授：富田守 ☎(5767)	<u>生理人類学</u> 人間行動にともなう身体の生理機能の変化を追求。特に、人類学的視点から姿勢及び歩行における動作学的、生理学的研究を行っている。
	人類年代学	助教授：松浦秀治 ☎(5769)	<u>人類化学・人類年代学</u> 人類の起源と進化、日本列島の起源などに関わる化石骨の分析から、人類史における年代学的背景の解明をめざし、併せて古人類の古環境的背景を考察している。
	生体制御機構	助教授：鈴木恵美子 ☎(5770)	<u>生体制御</u> 生活環境に由来する種々の物理的・化学的刺激を生体は受けている。特に環境からの化学的刺激に対する生体の応答に興味を持ち研究を行っている。
	環境材料化学	教授：小川昭二郎 ☎(5733)	<u>生活材料化学</u> 有機化学的手法による繊維の表面改質、吸水性、消臭性材料の開発、さらに環境により色、電気伝導度等が変化する機能性色素の開発、センサーへの利用等、新しい被服材料、生活材料について研究を行う。
	居住都市環境学	教授：田中辰明 ☎(5738)	<u>居住環境学</u> 生活を行う事で人間は、エネルギーを消費している。しかも、民生用のエネルギー消費は増大の一途を辿っている。この事により、酸性雨の問題や二酸化炭素の増大など地球環境に重大な変化をもたらせている。この実態を捉え、改善の為の代替エネルギーについて論じる。
	生活界面科学	教授：駒城素子 ☎(5725)	<u>生活界面科学</u> 繊維、プラスチック、金属など固体表面における物質の吸付着・脱着、酵素や酸化剤による分解反応など、界面で生ずる現象について、その機構を解析するとともに応用展開をはかる。
	衣生活環境科学	○教授：長谷部ヤエ ☎(5741)	<u>被服生理学</u> 種々の温熱環境が人体に及ぼす影響、および裸体時と着衣時との生理的差異から衣服が体温調節に果たす役割について研究する。さらに、衣服の形態や着用時の状態の違いによる熱・水分の移動の差異について研究する。
	感性工学	教授：會川義寛 ☎(5743)	<u>生活物理学</u> 生活における様々な物理的問題を、環境と人体の相互作用を考慮しつつ、物理的・生理学的・感性的観点から検討する。
	人間環境評価学	助教授：田辺新一 ☎(5748)	<u>衣住環境評価学</u> 室内環境温熱・空気環境の健康影響、快適性に与える影響を人間を中心として研究・教育する。また、その制御及び最適化をライフサイクルアセスメント、エネルギー最適化手法、生産性、心理的満足度手法を用いて行う。
	生活材料機能学	(教授：小川昭二郎) ☎(5733)	<u>生活材料化学</u> 有機化学的手法による繊維の表面改質、吸水性、消臭性材料の開発、さらに環境により色、電気伝導度等が変化する機能性色素の開発、センサーへの利用等、新しい被服材料、生活材料について研究を行う。
	感覚生理学	客員教授：佐藤昭夫 (東京都老人総合研究所)	<u>感覚生理学</u> 体表面からの刺激による体内器官への影響。生活において重要な役割を担っている各種感覚と環境の相互作用および人体の応答。
	神経生理学	客員教授：神田健郎 (東京都老人総合研究所)	<u>神経生理学</u> 体性神経の機能と生活。生活に於ける体表・深部組織への刺激が人体の生理に及ぼす影響、および環境に働きかける手段としての運動機能について、その基礎的仕組みと疾病・老化に伴う変化を明らかにする研究・教育を行う。
自律機能生理学	客員助教授：鈴木敦子 (東京都老人総合研究所)	<u>自律機能生理学</u> 生活における自律神経機能の性質とその制御。各種環境の変化に反応する人体の生理について、特に発汗や口渇、摂食、摂水、呼吸、排泄などに関して研究・教育を行う。	

【人間環境科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
食環境科学	生体物質化学	教授：永野 肇 ☐ (5348)	有機化学 テルペン等の天然有機化合物の生体内での役割に興味を持ち、それらの合成と機能解明の研究を行っている。また、ラジカル反応における新しい立体制御法の開発とその天然物合成への応用にも取り組んでいる。
	生体分子科学	(教授：松本勲武) ☐ (5342)	生化学 グリコバイオロジー（糖が関与する分子生物学）、特に動植物レクチンの構造と機能に関する研究。生物の体を構成する種々の生体分子間における親和・反応、会合・解離、集合・離散の機構に興味を持つ。
	環境医学	教授：永川 祐三 ☐ (5155)	環境医学 環境ホルモンなどの食環境の変化、二酸化炭素による温暖化、人口の高齢化などを視点において、特に食環境医学、高齢医学、メンタルヘルス、生活習慣病、感染症の領域の側面から専攻している。
	栄養制御学	助教授：大塚 恵 ☐ (5752)	栄養化学 微量栄養素の生理・生化学的諸問題に関する研究。疾病予防に効果のある食品成分の代謝制御機構に関心がある。特に、ビタミンCの役割について研究を行っている。
	加齢制御学	講師：藤原 葉子 ☐ (5750)	栄養化学、脂質栄養学 食品成分と動脈硬化症をはじめとする生活習慣病との関連に関心がある。特に必須脂肪酸の生理機能やリポ蛋白質代謝について研究を行っている。
	感覚分子化学	(未定)	
	嗜好性評価学	(未定)	
	食資源科学	教授：本間 清一 ☐ (5754)	食品加工貯蔵学 食品の加工と貯蔵中の品質変化を明らかにし、それを制御する要因と基礎技術の研究。この過程のエネルギー消費、副産物の資源化、さらに人間社会における食品を貯蔵する意義にも研究を拡げたい。
	食品機能学	助教授：久保田 紀久枝 ☐ (5757)	食品機能化学 食品起源の嗜好性機能や生理機能に関与する成分、特に香気成分、抗酸化性、抗菌性、血小板凝集抑制活性成分の検索やその生成機構、調理加工中の成分や活性の顕在的、潜在的变化について主として有機化学的手法により研究する。
	嗜好性設計学	教授：畑江 敬子 ☐ (5763)	調理科学 調理操作による、食物の味とテクスチャーの変化を化学成分および物性の測定を通して知る。この変化と人間の感覚との関係を知るために官能検査を行う。これらに基づいて嗜好性の高い食物を得るための調理方法を求める。
	食品バイオテクノロジー	助教授：村田 容常 ☐ (5753)	食品生化学（食品加工・貯蔵学） 食品の加工貯蔵中には様々な化学的变化が起こり、食品の特性や品質に大きな影響を及ぼしている。例えば野菜や果実を切ると褐変する。これは酵素反応が関係し、その過程を食品学的、生化学・分子生物学的に分析し、制御法も考案している。
	防御システム機能	◎教授：五十嵐 梢 ☐ (5808)	食品栄養学 ビタミンE、必須脂肪酸の生理機能代謝、相互作用。最近はこちらに加えて種々の食品成分の生理機能発現の解明の一環として、必須脂肪酸代謝への食品中の微量成分の効果についても検討している。
	食神経科学	(教授：倉田忠男) ☐ (5806)	食物学 食品・栄養化学の分野でみられる各種食物成分の食品・生体系における変化過程に関する諸問題。特に、ビタミンC及びその関連物質の生体内における挙動の解析、食品の成分間反応による着色・着香現象の化学的解明等に関心がある。
	食品栄養化学	※教授：倉田 忠男 ☐ (5806)	食物学 食品・栄養化学の分野でみられる各種食物成分の食品・生体系における変化過程に関する諸問題。特に、ビタミンC及びその関連物質の生体内における挙動の解析、食品の成分間反応による着色・着香現象の化学的解明等に関心がある。
	生体環境科学	助教授：冨永 典子 ☐ (5804)	植物生理学 極端な環境条件（高塩分濃度、酸性、低温等）でよく生育する単細胞藻類を材料とし、その環境適応の機構を生理学的、生化学的手法を用いて明らかにする。藻類において生長制御物質の果たす役割についても研究している。
	食品安全性評価学	客員教授：一色 賢司 (国立食品総合研究所)	食品安全性評価学 食品を構成する素材の安全性を確認する新手法を開発し、食品加工・貯蔵・流通することを想定して海外の食品素材や遺伝子操作した作物、新食糧資源などの利用を安全性を基礎とした設計をする。
	食品加工科学	客員助教授：大坪 研一 (国立食品総合研究所)	食品加工科学 研究レベルの食品の調理・加工に関する成果を生産に導入される際における生産スケール拡大で起こる問題や食品の風味・嗜好性を確保するための加工条件をしらべ、食品加工のハイテク化を追求する。
食健康科学	客員教授：井手 隆 (国立食品総合研究所)	食健康科学 国民の健康に大きく影響する第三次機能に着目し、食品素材に含まれる成分の活用により食品の付加価値を高め、食嗜好と健康とのバランスに立つ食生活の科学的根拠を確立する。	

注1) ◎を付している教授は平成11年度末、○を付している教授は平成12年度末をもって退官する予定である。
 注2) ※を付している教授は、講座代表である。

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
社会情報科学	社会情報論	助教授：坂元章 (☎5257)	社会情報学あるいは社会心理学 テレビゲーム、テレビ、新聞などのメディアによって人間の行動や発達にどのような影響があるか。自己や他者についての評価や判断がどのように形成されるか。
	環境情報論	※教授：河村哲也 (☎5394)	計算流体力学 流体力学の諸問題を計算機を使ってシミュレーションすることにより解析している。特に現在は、自然環境や地球環境問題に興味をもち、計算流体力学の手法による現象の解析を試みている。
	地理情報論	教授：田宮兵衛 (☎5196)	気候学 社会・人間活動と関連する自然地理学的諸現象を、それらの解析を通じて明らかにする。特に大気現象に関わる情報、すなわち大気環境情報に関心がある。当面対象とする現象は都市気候である。
	言語情報論	助教授：古田啓 (☎5203)	言語によって伝達される情報の内容と伝達の課程を考える。特に、言語とコンピュータに共通する「コード」の本質・コンピュータで伝達できる言語情報とできない情報・コンピュータで処理できる言語情報とできない情報の差などを中心に扱う。
数理自然情報科学	数理多様体構造論	※教授：塚田和美 (☎5305)	微分幾何学 現代数学及び自然社会諸現象の数理的解析に不可欠の概念である多様体構造に関し、微分幾何学的手法を用いて研究を行う。また、その数理的諸科学への応用についても関心を払う。
	数理解析論	教授：真島秀行 (☎5309)	微分方程式論 自然科学から社会科学、人文科学に至る様々な現象のみたす微分方程式、差分方程式、積分方程式などから、特定のものを選び、複素解析・漸近解析的手法を主とする数理解析的方法によって研究する。
	力学系理論	助教授：松崎克彦 (☎5300)	複素解析学・双曲幾何学 複素平面上の正則関数の力学系の理論として、クライン群論及び有理関数の反復合成を研究する。タイヒミュラー空間論、低次元双曲幾何学など複素解析的アプローチが中心となる。
	非可換解析論	助教授：吉田裕亮 (☎5386)	非可換解析学 非可換解析学とは、量子系を記述する数学的な道具である。非可換解析学において、中心的な役割を果たす作用素理論、最近では特に、作用素環上で考えられる非可換確率論に関連した研究を行っている。
	情報構造解析論	教授：金子晃 (☎5379)	応用数理 特に、偏微分方程式の数値解析と工業数学への応用、有限要素法の理論と応用、逆問題の解析、CTを中心とする画像処理の理論的研究、情報代数関連の話（ゲームのアルゴリズム・数式処理のライブラリ開発等）
	数値情報処理論	教授：佐藤浩史 (☎5398)	情報科学 広い意味での原子衝突関連の数値シミュレーション、特に、イオン・表面衝突の理論的研究に興味がある。また、外部の研究者と共同で視覚障害者教育支援システムの開発にも関わっている。
	画像情報論	助教授：藤代一成 (☎5700)	ビジュアルコンピューティング 画像合成・解析技術及び仮想現実感技術を利用し、自然科学から人文・社会科学に至るあらゆる分野で発生するデータに潜む対象の本質をユーザに探らせられる計算機環境の実現に資する。
	非線形現象解析	助教授：出口哲生 (☎5313)	数理物理学・物性基礎論 非線形性は多様な自然現象の中で重要な役割を果たす。非線形性のために系は単なる部分の和でない、全体として特有の性質を示す。ソリトンの逆散乱法やベータ仮説法などの数理物理学的手法を用いて、水面の波動、量子スピン系の厳密解、結び目と物理、高分子など幅広いテーマを総合的に研究する。
物質科学	統計物理学	教授：柴田文明 (☎5320)	非平衡統計物理学 玉葱の皮むき、物体→分子→原子→素粒子とは逆方向の研究。個性ある構成要素が互いに影響し合いながら集団となるとき振舞いは如何。基礎的量子現象、量子通信理論、確率・統計の研究を含む。
	凝縮系科学	教授：富永靖徳 (☎5318)	凝縮系物理学 結晶・分子・液体などの構造とダイナミクスの実験的な研究。水の動的構造と水溶液系における水の動的構造の分光学的研究。水素結合型強誘電体における水素結合と分極のダイナミクスの分光学的研究。
	高エネルギー物理	教授：菅本晶夫 (☎5323)	高エネルギー物理 物質の究極の存在としての素粒子の構造と相互作用を研究する分野で、関与するエネルギーが非常に大きいので「高エネルギー物理」と言う。標準的な理解を超えた、夢のある様々な試みに挑戦する分野である。
	宇宙天体物理学	助教授：森川雅博 (☎5312)	宇宙論 初期宇宙の相転移のダイナミクス。場の理論・非平衡統計力学などの手法も利用する。宇宙の波動関数・ブラックホールからの輻射・量子コヒーレンスと古典化・観測的宇宙論も含む。
	極端条件科学	教授：浜谷望 (☎5319)	極限物性学 超高压・極低温の極端条件下におかれた物質の物理的・化学的性質を実験的に研究する。とくに、物性を考察する上で最も基本的な情報である原子配列、電子密度分布を明らかにすることを主目的とし、X線・中性子線の回折・散乱実験を手段とする。あらゆる物質を研究対象とする。
	メソスコピック科学	助教授：小林功佳 (☎5314)	メソ・スケールの物理 最近の微細加工技術の進歩により非常にミクロな人工構造物が作られるようになった。本研究では、このスケール特有のこれまでに見られなかった新たな物性を探るための理論的研究を行う。
	理論分子科学	※教授：平野恒夫 (☎5337)	計算化学 分子軌道法などの量子化学計算により、分子の構造と反応性を明らかにする。特に、反応に関しては、振動の重要性を考慮した、ダイナミックな取扱いを行う。又、分子集合体の結晶構造を予測する方法を開発する。
	分子集合体科学	助教授：堀佳也子 (☎5339)	分子集合体科学 分子集合体が示す構造と物性の関連および各相間の転移挙動を分子レベルで解明するために、液晶性物質の結晶構造に基づき、種々の液晶相への転移挙動を実験的に解明する。

【複合領域科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
物質科学	計算科学	助教授：廣野景子 (☎5338)	理論化学、計算化学 主として量子化学的手法を用いて理論的研究を行っている。化学反応の機構、化合物の構造や機能などを種々のレベルの計算機を用いた数値計算やシミュレーション計算によって明らかにする。
	機能性分子	教授：福田豊 (☎5291)	無機・錯体化学 金属イオンの介在する化合物は、我々のあらゆる所に見られる。自然界の海水、地殻、空気中と言うにおよばず動物、植物内でも重要な動きをする。出来るだけ広い領域でこの様な金属イオンの動きを理解しようとしている。
	分子反応設計	助教授：山田真二 (☎5349)	分子反応設計 有機分子の構造と反応に関する基礎的研究を行い、それらに基づき有機分子を自在に構築するために必要な、位置、立体、官能基選択性を制御する新しい方法について研究する。
複雑系科学	複雑系の秩序形成	(未定)	
	非線形ダイナミクス	教授：太田隆夫 (☎5321)	相転移および非平衡開放系の理論 液晶、高分子混合系などの複雑液体における相転移ダイナミクスの理論的研究を行う。非平衡開放系の示す様々な動的秩序の起源、存在様式の研究も行っている。
	非平衡複雑系	※教授：藤枝修子 (☎5347)	計量分析化学 非平衡過程で進行する非線形化学現象の中で、化学振動反応に興味があり、時空構造の定量的実験から反応機構の解明に向けた研究を行う。熱学動、電気化学的測定、重力場の影響などの実験結果を計量化学から扱う。
	構造分子科学	助教授：今野美智子 (☎5718)	構造分子科学 結晶における構造を利用して、構造変化を伴う分子間相互作用あるいは、触媒的機能について講究する。主に、複雑な生体内分子の生理作用における過渡的分子結合の形成あるいは電子的安定化の機構を講究する。
	ミクロ複雑系	(未定)	
	生体複雑機能	助教授：最上善広 (☎5368)	動物生理学、宇宙生物学 生命現象の持つ「可塑性と安定性」及び、それらに由来する生物の「多様性」の問題を、生体の示す外部環境への応答機能の側面から捉え研究する。外部環境因子として、特に地球重力に着目し、地球生命の進化と多様化に対するその作用について、微小重力実験や宇宙実験を通してアプローチする。
	動的溶液科学	教授：益田祐一 (☎5350)	溶液科学 液体・溶液中での分子の様々なタイプの運動、あるいは化学反応過程が、溶液内のどのような時間的・空間的サイズのゆらぎと相互作用しているかについて、種々の分光法により明らかにする。

注) ※を付している教授は、講座代表である。

○平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 (博士後期課程) 外国人留学生学生募集要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較文化学専攻	若干名	実施しない	平成11年3月3日～5日
人間発達科学専攻	若干名		
人間環境科学専攻	若干名	平成10年9月21日～22日	
複合領域科学専攻	若干名		

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成11年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により修士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者

注）日本において高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※	平成10年 8月25日（火）～8月27日（木）	平成11年 2月2日（火）～2月4日（木）
言語試験	9月21日（月）	3月3日（水）
口述試験	9月21日（月）～9月22日（火）	3月3日（水）～3月5日（金）
合格発表 ☆	10月2日（金）	3月12日（金）

※ 受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時
出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること（代理人可）。
（後日、受験票等を送付する。）

☆ 12時頃に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

- 注1) 「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。
注2) 出願資格(5)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。
9月入試 : 平成10年8月19日(水) ~ 8月21日(金)
3月入試 : 平成11年1月25日(月) ~ 1月27日(水)
注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

4. 出願手続・試験時間割・試験場所・選考方法

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

5. 検定料、入学科及び授業料

検定料	30,000円	[平成10年9月・平成11年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科及び人間文化研究科博士前期課程修了見込者は不要]
入学科	275,000円	[平成10年9月・平成11年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科及び人間文化研究科博士前期課程修了見込者は不要]
授業料	469,200円(年額)	

- 注1) 検定料については、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。
出願手続きの際に納付すること。
注2) 出願資格(5)に該当する者についての検定料の納付手続きは、本学からの出願資格認定通知書を受領した日から一週間以内に行うこと。
注3) 国費留学生は免除される場合があるので、国費証明書を持参の上、出願の際に申し出ること。

6. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、学生部学務課留学生係(下記の電話番号)に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

7. 入学手続

- (1) 入学手続関係書類は、平成11年3月中旬に郵送する。なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

願書受付場所 : お茶の水女子大学 学生部学務課留学生係

平成10年6月

お茶の水女子大学
〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5143

比較文化学専攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研究計画書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	<p>外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者）</p> <p>戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）</p>	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返信用封筒	本学所定の封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 6 0 円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせしておくことが望ましい。講座代表教官については、14～16ページの比較文化学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。
また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること（代理人可）。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成11年3月3日（水） 10:30～11:50	3月3日（水）13:30～ 4日（木）5日（金）10:00～
文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座 異文化交流論講座	英語・独語・仏語・中国語 ・日本語から1言語を選択	主論文及び研究計画
科学文化論講座	英語	

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 言語試験においては、母語以外の言語を選択すること。（科学文化論講座を除く）

注4) 口述試験は、本学で指定する日時とする。（後日、試験日程等を送付する。）

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査（言語試験、口述試験）及び出願書類を総合して行う。

人 間 発 達 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。 あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、それを審査論文（主論文）とすることができる。</p> <p>※ 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨 （修士論文に相当するものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚以内（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚以内におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	<p>外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者）</p> <p>戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）</p>	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返 信 用 封 筒	本学所定の封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 6 0 円切手を貼付すること。（後日、受験票と口述試験日程等を送付する。）

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5000字以上の日本語要約を添付すること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注4) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、17～18ページの人間発達科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成11年3月3日(水) 10:30～11:50	3月3日(水)13:30～ 4日(木)5日(金)10:00～
発達基礎論講座 発達臨床論講座 発達社会環境論講座 ジェンダー論講座	英語・日本語から 1言語を選択	主論文及び研究計画

注1) 言語試験で、選択する言語を入学願書に記入すること。

注2) 言語試験において、辞書の使用は、認めない。

注3) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 環 境 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	〔 ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 〕	〔 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 〕
	修 士 論 文	修 士 論 文 に 代 わ る も の
	<p>2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 の概要を添付すること。（A4版用紙）</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	<p>6部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5,000字程度 または 英語 2,000語程度 にまとめること。（A4版用紙）</p> <p>ただし、図表は字数には含まれない。</p> <p>なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。</p>
	修 士 論 文 （ 審 査 論 文 ） の 要 旨	
	<p>6部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2,000字程度 または 英語 800語程度 で A4版用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。</p>	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1,000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
7	保証人届	日本国内に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	その他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
9	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、19~21ページの間人環境科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30 ~ 11:50	1日目 13:30 ~ 2日目・3日目 10:00 ~
相関生命科学講座 生活システム科学講座 食環境科学講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

複 合 領 域 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	〔 ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 〕	〔 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 〕
	修 士 論 文	修 士 論 文 に 代 わ る も の
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。</p> <p>いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 の概要を添付すること。（A 4 版用紙）</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	<p>6 部</p> <p>修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 にまとめること。（A 4 版用紙）</p> <p>ただし、図表は字数には含まれない。</p> <p>なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。</p>
	修 士 論 文（審査論文）の要旨	
	<p>6 部</p> <p>修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。</p> <p>修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2, 0 0 0 字程度 または 英 語 8 0 0 語程度 で A 4 版用紙 3 枚以内（図表を含む）におさめること。</p>	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1,000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめ	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
7	保証人届	日本国内に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	その他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
6	返信用封筒	本学所定の封筒(長形3号)に宛名を明記し360円切手を貼付すること。(後日、受験票と口述試験日程等を送付する。)

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせることが望ましい。講座代表教官については、22～23ページの複合領域科学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照のこと。

また、入学願書の志望指導教官名の欄に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【口述試験】
試験日時	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	主論文及び研究計画

注1) 口述試験は、本学で指定する日時とする。(後日、試験日程等を送付する。)

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。

○平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
(博士前期課程) 学生募集要項

学生募集日程等

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9月入試	2月入試
		試験期日	試験期日
言語文化専攻	* 32名	/	平成11年 2月2日・3日・4日
人文学専攻	28名		
発達社会科学専攻	* 43名		
ライフサイエンス専攻	45名	平成10年 9月2日・3日	
物質科学専攻	23名		
数理・情報科学専攻	* 25名		

* 募集人員には、社会人特別選抜の募集人員を含む。

2. 出願期間

9月入試：平成10年8月18日～8月21日（必着）
2月入試：平成11年1月11日～1月14日（1月14日付けの消印有効）

*受付時間：午前9時～11時30分、午後1時～3時

*持参の場合は、本学所定の封筒に出願書類一式を同封の上、提出のこと。
(後日、受験票等を郵送する。)

(注) 言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は、9月入試は実施しない。

3. 出願資格・出願手続

各専攻の募集要項を参照すること。

4. 願書受付場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 人間文化研究科事務室(2階)
(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

5. 選考方法・試験場所

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに調査書等の出願書類を総合して行う。
なお、詳細については各専攻の募集要項を参照すること。

6. 合格発表

9月入試：平成10年9月11日(金) 12時頃人間文化研究科棟1階に合格者の受験番号を掲示する。
2月入試：平成11年2月15日(月) ” ”
合格通知は、人間文化研究科事務室(2階)で受験票を確認の上交付する。

7. 検定料・入学科・授業料

検定料：30,000円 入学科：275,000円 授業料：478,800円(年額)

8. 入学手続関係書類

9月入試：平成11年3月上旬に郵送する。
2月入試：後日郵送する。

9. 注意事項

- (1)出願手続後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (2)合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

10. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 人間文化研究科事務室 Tel 03(5978)5821・5822

博士前期課程の目的及び修了要件

(目的)

1. 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。
2. 博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

(修了要件)

1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 前項の場合において、博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

(進学)

本学大学院の博士前期課程を修了したものは、選考の上、博士後期課程に進学することができる。

○取得できる学位

専攻	学位	学位に付記する専攻分野の名称
言語文化専攻	修 士	人文科学 ・ 社会科学 ・ 学術
人文学専攻		人文科学・社会科学・生活科学・学術
発達社会科学専攻 発達人間科学系 生活・開発科学系		人文科学・生活科学・社会科学 理学 ・ 学術
ライフサイエンス専攻 生活科学系 生命科学系		理学 ・ 生活科学 ・ 学術
物質科学専攻		理学
数理・情報科学専攻		理学 ・ 学術

言語文化専攻学生募集要項

1. 募集人員 32名（社会人特別選抜の募集人員5名を含む。）
*社会人特別選抜学生募集については15頁を参照

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

- (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推薦書	指導の教員又は主任教員等により作成されたもの。（形式随意）
4	卒業論文	卒業論文又はそれに代わるもの。
5	研究計画書	将来の研究計画を1,000字以内でまとめたもの。 (本学所定の用紙)
6	写真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
7	調査書	本学所定の用紙
8	健康診断書	本学所定の用紙
9	検定料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
10	検定料納付書	本学所定の用紙
11	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

- (2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の志望専攻欄に「言語文化専攻」と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成11年2月2日(火)		3日(水)・4日(木)
	外国語試験 10:00~11:30	専門試験 13:00~15:00	口述試験 10:00~
日本語文化学	英語・独語・仏語・ 中国語から1か国語選 択	日本語学・日本文学	
アジア言語文化学		中国語学・中国文学	
日本語教育		日本語教育学・ 日本語文化学	
英語圏・欧州言語文化学 (英語圏言語文化専修)	仏語・独語・中国語 から1か国語選択	英語・英語学及び 英米文学	
英語圏・欧州言語文化学 (仏語圏言語文化専修)	英語・独語・中国語 から1か国語選択	仏語・仏語学及び 仏文学	

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

人 文 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 28 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	卒業論文	卒業論文又はこれに代わるものが提出できない場合はその旨申し出ること。（注）
4	研究計画書	1,000字程度（本学所定の用紙）
5	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
6	調 査 書	本学所定の用紙
7	健康診断書	本学所定の用紙
8	検 定 料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
9	検定料納付書	本学所定の用紙
10	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

（注）音楽表現学コース志望者で論文に代わるものとして演奏を行った者は、卒業試験演奏曲目を提出すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
 なお、封筒の志望専攻欄に「人文学専攻」と記入すること。
 また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
	外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00	
思想文化学	英語・独語・仏語・ 中国語から1か国語 を選択	哲学または倫理 学のうちから1 科目を選択	口述試験 10:00~
歴史文化学		日本史・東洋史 ・西洋史・美術 史のうちから1 科目を選択。な お、美術史分野 は専門試験に加 え、英・独・仏 から1か国語を 課す(外国語試 験とは異なる言 語を選択)。	
服飾文化学		服飾史および服 飾美学	
舞踊・表現行動学		舞踊学	舞踊実技(舞踊の種類・ 演目は自由)(注)
音楽表現学		西洋音楽史及び 日本音楽史から 選択	音楽学:演奏実技(任意 の楽器又は声、曲目は自 由)を課する。 演奏学:10分程度の演 奏実技(曲目は自由)を 課する。 いずれの場合も、必要 な場合は伴奏者を同伴す ること。

(注) 使用する音楽をカセットテープに録音し持参のこと。

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

発 達 社 会 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 43 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推 薦 書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの。（形式随意） （本学を卒業見込みの者は、提出する必要はない。）
4	卒 業 論 文	卒業論文あるいはそれに代わるもの。
5	研 究 報 告 書	2,000字程度の概要を提出すること。（本学所定の用紙）
6	研 究 計 画 書	大学院における研究計画を2,000字以内でまとめたもの。 （本学所定の用紙）
7	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したものの2枚を 指定欄に貼付
8	調 査 書	本学所定の用紙
9	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
10	検 定 料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
11	検定料納付書	本学所定の用紙
12	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
 なお、封筒の志望専攻欄に「発達社会科学専攻」と記入すること。
 また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時		平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
		外国語試験 10:00～12:00	専門試験 13:00～15:00	
発達人間科学系	教育科学	英語 (辞書持ち込み不可)	教育科学	口述試験 10:00～
	心理学		教育心理学, 発達心理学, 認知心理学, 社会心理学の中から1科目選択	
	発達臨床学		発達臨床学	
	応用社会学		応用社会学	
	社会臨床論		臨床心理学, 教育臨床学の中から選択	
生活・開発科学系	生活政策学 ----- 地理環境学 ----- 開発・エンダー論	英語 (問題は, I 英語和訳, II 和文英訳に分かれ, II 和文英訳のみ辞書持ち込み可)	6問中2問選択。 内1問は必ず志望コースからの出題問題を選択すること。	

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

発達人間科学系 お茶の水女子大学 文教育学部
生活・開発科学系 お茶の水女子大学 生活科学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

6. その他

本専攻は現在、東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻・理学系研究科、東京工業大学大学院、奈良女子大学大学院との間で、学生交流(単位互換)を行っている。

ライフサイエンス専攻学生募集要項

1. 募集人員 45名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
ただし、この件については2月入試で行う。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票
2	卒業証明書(卒業見込証明書)
3	写 真 正面上半身(5cm×4cm)で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
4	調 査 書 本学所定の用紙
5	健康診断書 本学所定の用紙
6	検 定 料 30,000円(「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。)
7	検定料納付書 本学所定の用紙
8	返信用封筒 本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
 なお、封筒の志望専攻欄に「ライフサイエンス専攻」と記入すること。
 また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成10年9月2日(水)		
2月入試	平成11年2月2日(火)		
生活科学系	外国語 10:30~11:30	専門科目 12:30~14:30 生活環境学分野の問題から選択する。	口述試験 14:45~ 卒業研究の内容及び将来の研究等について口述する。
生命科学系	英語	口述試験 12:30~ 生命科学分野に関する卒業研究の内容及び将来の研究等について口述する。	

(注) 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

生活科学系 お茶の水女子大学 生活科学部
生命科学系 お茶の水女子大学 理学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

物質科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 23 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
ただし、この件については2月入試で行う。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票 ・写真票	① 第一志望のコース名及び指導教官名は、必ず記入すること。 ② 第二志望のコース名及び指導教官名を記入することもできる。 ③ 第二志望のコースは、第一志望のコースと異なってもよい。
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙
5	健康診断書	本学所定の用紙
6	検 定 料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
7	検定料納付書	本学所定の用紙
8	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の志望専攻欄に「物質科学専攻」と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成10年9月2日(水)		9月3日(木)
2月入試	平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
選考	物質科学に関する 基礎科目 9:30~12:30	物質科学に関する 専門科目 13:30~15:30	口述試験 10:00~
	9問中4問選択 (各問100点)	9問中2問選択 (各問150点)	

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 理学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

数 理 ・ 情 報 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 25 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
ただし、この件については2月入試で行う。

(注) 出願資格(5)・(6)に該当する者は、担当教官又は専攻長と事前に相談すること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	検 定 料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
7	検定料納付書	本学所定の用紙
8	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、封筒の志望専攻欄に「数理・情報科学専攻」と記入すること。

また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成10年9月2日(水)				9月3日(木)
2月入試	平成11年2月2日(火)				2月3日(水)
選考	一般・基礎教育科目 (微積分・線形代数)	外国語 (英語)	専門科目	口述試験	口述試験 10:00~
	9:30 ~ 10:50	11:00 } 12:00	13:00 } 16:00	16:30 }	

- 注) : (1) 専門科目の試験内容: 数学コースは必修1題(位相空間論)、選択2題
他コースは、3題選択
(2) 口述試験の時間割は試験1日目に発表する。
(3) 受験するコースと希望指導教官の所属コースが異なる場合は当該教官または
専攻長と事前に相談することが望ましい。
(4) 数学コースについては、「数A・数B・数C」の区分に関する希望順位を記入
すること。

[数A] 教授 渡辺ヒサ子 ポテンシャル論
真島 秀行 微分方程式論
前田ミチエ 測度論
助教授 松崎 克彦 複素解析学
[数B] 教授 藤原 正彦 数論
助教授 榎本 陽子 群論および表現論
横川 光司 代数幾何
[数C] 教授 塚田 和美 微分幾何

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 理 学 部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

言語文化専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 募集人員 日本語教育コース 5名

2. 募集対象

大学卒業後、過去10年以内に2年間以上（出願年度の3月末日までの期間を通算して2年間以上となる場合を含む。）の日本語教育の経験を有し、日本語教育学・日本語文化学についてさらに高度の専門能力を養おうとする者。

（注）ただし、個人教授及び研究会会員等の経験歴は、ここでは含まれない。

3. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

4. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票
2	卒業証明書
3	推薦書 指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの（形式随意）
4	研究報告書 大学における卒業論文・卒業研究の内容を1,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
5	研究計画書 将来の研究計画を2,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
6	職務内容報告書 日本語教育機関における職務の内容を1,000字以内にまとめたもの。（本学所定の用紙）
7	写真 正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
8	調査書 本学所定の用紙
9	在職証明書 常勤、非常勤を問わず在職経験をしめす「在職証明書」
10	健康診断書 本学所定の用紙
11	検定料 30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
12	検定料納付書 本学所定の用紙
13	返信用封筒 本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。
なお、封筒の社会人の欄に○を付け、志望専攻欄に「言語文化専攻」と記入すること。
また、郵送する場合は書留速達とすること。

5. 選考日時及び選考方法

平成11年2月2日(火)		2月3日(水)・4日(木)
外国語	専門科目	口述試験
10:00~11:30	13:00~15:00	10:00~
英語・独語・仏語・ 中国語のうちから1か 国語を選択する。	日本語教育学 日本語文化学	主に研究報告・計画書・職務内容報告 書にもとづいて行う。

6. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

発達社会科学専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 募集人員 発達人間科学系・社会臨床論コース 若干名

2. 出願資格

次のいずれかに該当し、平成11年4月までに2年以上の社会経験を経た女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書	出身大学の卒業証明書
3	志望理由書	本学所定の用紙
4	卒業論文	卒業論文あるいはそれに代わるもの。
5	研究報告書	2,000字程度の概要を提出すること。（本学所定の用紙）
6	研究計画書	大学院における研究計画を2,000字以内でまとめたもの。 （本学所定の用紙）
7	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
8	調 査 書	本学所定の用紙
9	健康診断書	本学所定の用紙
10	検 定 料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
11	検定料納付書	本学所定の用紙
12	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、封筒の社会人の欄に○を付け、志望専攻欄に「発達社会科学専攻」と記入すること。

また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時及び選考方法

平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
外国語試験 10:00~12:00	専門試験 13:00~15:00	口述試験 10:00~
英語	臨床心理学, 教育臨床学から選択	主に志望理由書、研究報告にもとづいて行う。

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

6. その他

本専攻は現在、東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻・理学系研究科、東京工業大学大学院、奈良女子大学大学院との間で、学生交流(単位互換)を行っている。

数理・情報科学専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 専攻別募集人員 情報科学コース及び応用数理コース 若干名

2. 出願資格

次のいずれかに該当し、最終学歴以降平成11年4月までに2年以上の社会経験を有する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書	出身大学の卒業証明書
3	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙
5	志 望 理 由 書	本学所定の用紙（800字程度）
6	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
7	検 定 料	30,000円（「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
8	検定料納付書	本学所定の用紙
9	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、封筒の社会人の欄に○を付け、志望専攻欄に「数理・情報科学専攻」と記入すること。

また、郵送する場合は書留速達とすること。

4. 選考日時、選考方法及び試験場所

9月入試	平成10年9月2日(水)		
2月入試	平成11年2月2日(火)		
選考	一般・基礎教育科目	外国語	口述試験 13:00～
	9:30～10:50	11:00～12:00	
	微積分・線形代数	英語	

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 理学部
(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

6. 昼夜開講制と教育方法の特例

当専攻では社会人を対象に大学院設置基準第14条の規定による教育方法の特例として昼夜開講制を行うこととし、その概略は次のとおりである。

前期課程の2年のうち、前半の1年間は原則として本学での履修を必要とするが、後半の1年間はスクーリングのしほりを大幅に緩和した形で研究指導を受けながら、修士論文を作成することになる。

さらに、特別の事情があると認められたときは、最初の1年間も夏休みなどの活用によって、かなり柔軟な学習形態をとることが可能な場合もある。

このように、指導教官の指導のもとに受講計画、研究計画について個々に柔軟に対応することができるが、可能な範囲については様々であるので希望する指導教官と前もって相談することが望ましい。

専攻及びコースの概要

専 攻	コ ー ス
<p>◎ 言語文化専攻</p> <p>人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。</p> <p>具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別的に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。</p> <p>さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。</p>	<p>○ 日本言語文化学</p> <p>多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。</p>
	<p>○ アジア言語文化学</p> <p>中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。</p>
	<p>○ 英語圏・欧州言語文化学</p> <p>英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。</p>
	<p>○ 日本語教育</p> <p>国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望にこたえうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。</p>
<p>◎ 人文学専攻</p> <p>哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。</p>	<p>○ 思想文化学</p> <p>本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理思想史」とに分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。</p> <p>「日本倫理思想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。</p>
	<p>○ 歴史文化学</p> <p>近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。</p>
	<p>○ 服飾文化学</p> <p>近年、日本および欧米で服飾の研究が増大しているのを踏まえ、時代、地域、社会、美意識、生活感情などとの関係の中で服飾を研究する。現代の風俗についても、「流行情報特論」を開講し、現代の感性の動向を数量的解析とフィールドワークによって分析する。</p>
	<p>○ 舞踊・表現行動学</p> <p>舞踊並びに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門的人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。</p>
	<p>○ 音楽表現学</p> <p>音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。</p>

専攻	コース
<p>◎ 発達社会科学専攻 (発達人間科学系)</p> <p>社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会-人間-発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。</p>	<p>○ 教育科学 人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。</p> <p>○ 心理学 心理学コースでは、健全な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次元的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「発達情報管理論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。</p> <p>○ 発達臨床学 心理学的観点から、発達や臨床、人間関係、保育・授業等の研究を行う。発達心理、臨床心理、保育・教育心理等の専門的研究者、高度なレベルの幼稚園・小学校等の教師、また、心理臨床の専門家の基礎的教育を行う。</p> <p>○ 応用社会学 現代社会の諸問題(家族・地域、コミュニケーションの問題など)を社会的に研究する。人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会病理を扱う「社会保障論」などを開講する。</p> <p>○ 社会臨床論 心理学、臨床心理学、精神医学等の臨床的研究に加えて、社会環境を重視する教育臨床学の立場から学校や家族の抱える諸問題を研究の対象とする。いじめ、不登校、児童虐待、家庭内暴力等の病理的、逸脱的と言われる事象を実践的に研究するとともに、それらの背後にある指導観・教育観を批判的に検討する。</p>
<p>◎ 発達社会科学専攻 (生活・開発科学系)</p> <p>「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」及び「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題-代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など-に的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。</p>	<p>○ 生活政策学 高齢社会化、生活をめぐる諸価値の多様化、生活のグローバル化、女性の社会的活動領域の拡大の中で生ずる生活・家族・女性に関する諸問題を、法学・政治学・経済学・社会学の各分野から研究する。開講科目は、生活法社会論、生活政治論、消費者問題論、生活経済論、長寿社会論、家族関係論、生活情報論など。家庭科教育学特論を履修して家庭科教員専修免許状も取得できる。</p> <p>○ 地理環境学 人間と環境の関係を多角的にとらえるために、まず、地球科学的基礎のうえに、大気現象の動態と人為変化を自然科学的に分析する「自然環境論」を開講し、地形環境とその変化を通じて現代の自然観や社会運動を分析する「環境認識論」を開講する。一方、社会・文化的活動を中心に置く視座から、地域イメージの形成やその変遷を通して人間と地域のつながりを分析する「環境文化論」を開講し、また、経済活動によって地域がどのように形成されるかを分析する「地域経済論」を開講する。さらに、以上の各分析で必要となる各種データの収集・処理方法を開発するために「地理情報論」を開講する。</p>

専攻	コース
<p>◎ 発達社会科学専攻 (生活・開発科学系)</p>	<p>○ 開発・ジェンダー論 従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え、開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指し、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。ジェンダー概念の成立と現在の論点を検討する「ジェンダー論」、ジェンダー概念を比較文化的に研究する「ジェンダー文化」、ジェンダーの視点から社会政策を検討する「女性論」、女性の視点から経済学の枠組みを再構築する「フェミニスト論」、社会開発・人間開発の諸過程を地球規模の視野で比較検討する「比較ジェンダー論」、途上国と先進国を事例に国家の開発政策とその有効性を考える「開発地域論」、地域研究とフィールドワークとの関係を再考する「開発地域論」などを講ずる。</p>
<p>◎ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)</p> <p>人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。中でも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立っている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的発展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学の他、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。</p>	<p>○ 食品科学 食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割をになっている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。 また、新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。</p> <p>○ 栄養科学 健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や制御、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。</p> <p>○ 人間生活工学 人間の生活には、身体を含む物質的な面と、これに基づく精神などの感性的な面、そしてこれらを基礎としつつ逆に規制もしている社会的な面とがあり、これらは相互に密接に関連している。 生活の基礎である人体のメタボリズムは身体のエネルギーバランスを前提としており、これは生活活動による代謝と環境への熱の排出を基礎としている。これには身体の代謝量を決定する生活様式、環境との界面をなす衣服・住居形態などの変数が直接的な影響を与える。実際の生活はこれらの変数の選択より成り立っているが、その選択因子として人の感性や各人の価値観に基づく生活様式への評価関数がある。本コースは、これらの多様な面を含む人間の生活をいかに、合理的に、かつ健康的に、さらに快適になるように、設計し、実行していく、工学として取り扱う。</p> <p>○ 環境生活工学 人間の生活を直接的に支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。我々の生活には、消臭材料や高吸水性材料、特殊加工繊維製品、高機能洗剤など、優れた工学的成果を生かした特殊生活機能材料が用いられている。どのような機能・物性が生活に求められているか、そのために必要なメカニズムは何か、またそれをどのように設計し開発するか、そして、これらの材料に関する工学的成果をいかに生活に生かすか、本コースではこれらを検討している。また、熱・光・音・空気などの環境因子が人体の生理や心理にどのような影響を与えるかについても工学的に取り扱っている。</p>

専攻	コース
<p>◎ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)</p>	<p>○ 生物人間科学 人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間についての理解を深めることが極めて大切である。 本コースは人間を自然科学的に探究することを目指し、人間の身体的側面を中心とした本質、由来、変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間に関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。</p>
<p>◎ ライフサイエンス専攻 (生命科学系)</p> <p>生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物学に関する教育・研究を行う。さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。</p>	<p>○ 分子生物学 分子生物学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次の生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。 糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。</p> <p>○ 生命体科学 生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。 本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。</p>
<p>◎ 物質科学専攻</p> <p>マイクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。</p>	<p>○ 相関物質科学 相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピニングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。</p> <p>○ 分子科学 分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。</p> <p>○ 物理学 究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。</p>
<p>◎ 数理・情報科学専攻</p> <p>数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。</p>	<p>○ 情報科学 コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。</p> <p>○ 応用数理 情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。</p> <p>○ 数学 様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。</p>

担当教官及び主な授業科目

博士前期課程
言語文化専攻

平成10年6月1日現在
(担当教官名：五十音順)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
日本語文化学コース	教授 市古夏生 " 岩崎千鶴 " 鈴木泰 " 平野由紀子 " 三木紀人 助教授 大塚常樹 " 菅聡子 " 古田啓	日本近世小説、出版文化 日本上代文学 国語学、特に古代日本語 平安和歌文学 中世日本の知識人たちの心情・生活・および文学 日本現代文学、特に宮沢賢治 日本近代文学、特に明治小説 国語学、特に近代日本語	日本近世文学特論 日本上代文学特論 古代日本語学特論 日本中世文学特論 日本中世文学特論 日本現代文学特論 日本近代文学特論 近代日本語学特論
アジア言語文化学コース	教授 相原茂樹 助教授 宮尾正樹 (未定) (未定)	中国現代語学 中国現代文学	現代中国文学特論 現代中国語圏文学特論 東アジア比較言語文化論 中国古典学特論
英語圏・欧州言語文化学コース	教授 石川宏 " 石丸昭二 " 海老根静江 " 中村弓子 " 西尾道子 " 西宮川幸久 助教授 牛江ゆき子 " 内田正子 " 菅野健 " 竹村和子 " 中松直毅 " 村田真弓	フランス近代小説・ロマン主義の諸問題 20世紀ドイツ・オーストリア文学 ヘンリー・ジェイムズ、アメリカ・モダニズム文学の研究 20世紀フランス文学・思想（ベルクソン） 英語学、特に語用論（談話構造の検討に關心） 英語文法理論・英語音声学・英語語法の研究 英語の発話を対象とする意味論・語用論の研究 小説、散文を中心とする英文学、イギリス社会研究 近代独文学、特にトーマス・マン研究 アメリカ文学と映像における表象の研究及び批評理論 ヴァレリーを中心とする近・現代フランス文学 17世紀のイギリス文学および観念史研究 17世紀フランス宗教思潮・神秘主義思想	近代仏文学特論 独文学特論 米文学特論（作品研究）・米文学特論（作家・批評研究） 現代仏文学特論 英語コミュニケーション特論 英語学特論（統語論・意味論） 英語学特論（語用論） 英文学特論（作家・批評研究） 近代独文学演習 英語圏言語文化特論 現代仏文学特別演習 英文学特論（作品研究） 近代仏文学特別演習
日本語教育コース	教授 長友和彦 " 木紀人 助教授 岡崎眸 " 西澤奈津子 " *本郷逕子 " 村松賢一	第二言語としての日本語の習得研究 中世日本の知識人たちの心情・生活・および文学 日本語習得に及ぼす母語の影響を明らかにすること 日本古代における王権と儀式の研究 従来の教授法を考察し、日本語教育法の改善を目指す 情報伝達におけるイントネーションの役割	言語分析学特論 日本語文化学演習 日本語教育方法論 日本語文化学特論 比較言語教育学特論 日本語音声教育方法論

人文学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
思想文化学コース	教授 高島元洋 " 土屋賢二 " 羽入佐和子 助教授 佐藤光子 " 三浦謙	日本倫理思想史 ギリシャ哲学・分析哲学 実存哲学・比較思想 日本思想史における超越思想、仏教思想、比較思想 現代哲学・科学哲学	倫理思想史特論 哲学特論 形而上学特論 倫理学特論 科学哲学特論
歴史文化学コース	教授 秋山光文 " 大塚勇次郎 " 窪添慶文 " 小風秀雅 " 安田次郎 " 山本秀行 助教授 天野知香 " 新井由紀夫 " 西澤奈津子 " 三浦徹	インド美術史、仏教美術史 日本近世史、女性史 中国古代の政治・社会・文化・国際関係 日本近代史、近代化と国際関係 日本中世史、古文書学 ドイツ現代史、ヨーロッパ社会史 フランス近代美術史 イギリス中世史、ヨーロッパ国制史 日本古代史、政治文化史 イスラム史、都市社会史	東洋美術史特論 日本社会史特論 アジア政治文化特論 日本政治経済史特論 歴史史料論 西洋史学方法論 西洋美術史特論 西洋政治文化特論 日本文化史特論 アジア社会文化特論

人文学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
服飾文化学コース	教授 板倉 壽郎 " 小池 三枝 助教授 徳井 淑子 " 吉村 佳子	流行伝達の構造 日本近世・近代の服飾と美意識 フランス中世・近代服飾 日本の古代・中世の服飾を中心とした生活文化	流行情報論特論 日本服飾文化論 西洋服飾文化論 風俗文化論
舞踊・表現行動学コース	教授 石黒 節子 " 片岡 康子 助教授 本田 郁子	舞踊上演に関するコミュニケーション研究 20世紀における芸術舞踊の作家・作品研究 日本及びアジアにおける民族舞踊の伝承と変容	上演舞踊学特論 舞踊芸術学特論 民族舞踊学特論
音楽表現学コース	教授 遠藤 秀一郎 " 徳丸 吉彦 " 林 廣子 助教授 永原 恵三	ピアノ演奏法 民族音楽学・音楽記号学 声楽作品における演奏法研究 音楽美学・パフォーマンス研究	ピアノ演奏学特論 民族音楽学特論 声楽演奏学特論 音楽学特論

発達社会科学専攻 (発達人間科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
教育科学コース	教授 上野 浩道 " 鷹野 光行 " 耳塚 寛明 " 宮原 修 助教授 駒込 武彦 " 米田 俊彦 (未定)	シンボルの機能と役割に関する教育人間学的考察 遺跡博物館と博物館の教育機能 教育施設と学校組織の社会学的研究。高校教育論 学校教育を中心とする教育方法・教育課程の研究 ナショナリズムと教育に関する比較文化史的考察 日本の教育制度・政策史の研究	教育人間学特論 博物館学特論 教育社会学特論 教育方法学特論 比較教育文化史特論 教育行財政学特論 生涯学習特論
心理学コース	教授 内田 伸子 " 内藤 俊史 助教授 石口 彰章 " 坂元 彰章	発達心理学。特に言語の発達の基盤メカニズム 教育心理学。通達性の発達と文化的要因の研究 認知心理学。視覚パターン認知を中心とする 社会心理学。特に社会的認知とメディア効果	心理発達論 人格形成論 認知システム論 心理社会行動論
発達臨床学コース	教授 黒田 淑子 " 榎木 満生 " 無藤 隆 助教授 伊藤 美奈子 " 田代 和美	人間関係・生活臨床における「関」関係の役割 カウンセリングや心理療法の原理と技法 生涯にわたる認知と対人関係の発達 青年期以降の人格発達ならびに学校臨床 乳幼児の保育と臨床	人間関係学特論 カウンセリング特論 認知発達学特論 生涯臨床学特論 保育臨床学特論
応用社会学コース	教授 天野 正子 " 平岡 公一 助教授 坂本 佳穂恵	「市民社会」とネットワークに関する社会学的考察 福祉政策に関する社会学的研究 「現代社会と社会意識」に関する理論的研究	社会集団論 社会集団論 社会意識論
社会臨床論コース	教授*春日 喬 助教授 酒井 明 " 山本 政人	コミュニケーションの病理と治療モデル 日本の学校文化、教育活動のエスノグラフィ 発達障害のメカニズムと援助	メンタルヘルス論 青少年指導文化論 障害臨床学特論

発達社会科学専攻 (生活・開発科学系)

生活政策学コース	教授 袖井 孝子 " 牧野 カツコ 助教授 犬塚 伝也 " 小谷 眞男 " 杉田 孝夫 " 御船 美智子	老年期における家族関係及び女性の介護役割の研究 日本の家族関係の研究および家庭科教育学 消費者問題論-消費者・生活者の観点からの接近法 〈生活〉の比較法社会史 家族・福祉・参加等に関する政治思想(史)研究 家庭を媒介とした経済社会と生活の理論・実証研究	長寿社会論 家庭科教育学特論 消費者問題論 生活法社会論 生活政治論 生活経済論
----------	---------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------

発達社会科学専攻 (生活・開発科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
地理環境学コース	教授 田宮 兵衛 " 内藤 博夫 助教授 内田 忠賢 " 杉谷 隆勲 " 水野 勲 (未定)	自然地理学・気候学。気候解析及び都市気候学 工業地域の形成と変動および農業産地の構造と変容 歴史・文化地理学。生活世界研究。 自然保護や自然園についての自然地理学的研究 地理情報を用いた地域不均衡理論研究	自然環境論 地域経済論 環境文化論 環境認識論 地理情報論 地理情報論演習
開発・ジェンダー論コース	教授 館 かのる " 波平 恵美子 " 原 ひろ子 助教授 熊谷 圭知 " 栗原 尚子 (未定)	ジェンダー規範と制度の連関に関する研究 医療とジェンダーの文化人類学 開発過程での文化・社会と個人生活との関連の分析 オセアニア・東南アジア地域研究とフィールドワーク バルセロナ市の都市計画を社会地理学的に研究	ジェンダー関係論 ジェンダー文化論 比較ジェンダー開発論 開発地域文化論 開発政策論 フェミニスト経済学

ライフサイエンス専攻 (生活科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
食品科学コース	教授 本間 清一 " 畑江 敬子 助教授 久保田 紀久枝 " 冨永 典子 " 村田 容常 (未定)	食品の加工・貯蔵中の成分間反応の解析と応用 調理操作による食品の変化とその制御 食品中の生理機能成分の化学構造と活性相関 極限環境下の微細藻類の生長特性と適応について 食品の貯蔵・加工に関する生化学反応の解析と制御	食品保存科学特論 調理科学特論 食品機能化学特論 資源微生物学特論 食資源特論 嗜好成分化学特論 食嗜好評価学特論
栄養科学コース	教授*五十嵐 脩 " 倉田 忠男 助教授 大塚 恵子 講師 藤原 葉子 (未定)	ビタミンE、カロテノイドの体内動態・代謝・生理機能 ビタミンCの抗酸化機能と生理作用の発現機構 微量栄養素の生理・生化学および代謝制御 脂質・コレステロール代謝	生体防御学特論 食品生化学特論 栄養生化学特論 代謝制御学特論 生化学特論
人間生活工学コース	教授 會川 義寛 " 田中 辰明 " 長谷部 ヤエ	感覚工学・人体への刺激と応答・固体電子材料物性 住宅問題、省エネルギーの太陽熱利用住宅、カビ 着衣による生理反応と熱的快適性、熱・水分の移動	人間生活物理学特論 人間居住環境学特論 衣生活環境学特論
環境生活工学コース	教授 小川 昭二郎 " 駒城 素子 助教授 田辺 新一 " 仲西 正	繊維及び高分子材料化学・機能性色素化学 染色化学と洗浄科学、繊維の酵素処理加工 住環境計画、人体の熱・空気環境評価 高分子材料物性、膜とゲル、機能性繊維	生活材料化学特論 生活環境化学特論 衣住環境評価学特論 生活材料物性特論
生物人間科学コース	教授 富田 守 " 永川 祐三 助教授 鈴木 恵美子 " 松浦 秀治 講師 柴坂 寿子	生活行動の生理学的基礎 健康管理医学 生体に影響を及ぼす生活環境因子の解析 人類の進化や日本人の起源に関する年代学的研究 人間の社会行動と集団過程の比較行動学的研究	生理行動学特論 健康医学特論 生体制御学特論 人類進化学特論 比較行動学特論

ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

分子生物科学コース	教授 芦原 坦 " 松浦 悦子 " 松本 勲武 " 室伏 きみ子 助教授 小川 温子 " 小林 哲幸 " 林 正男	植物の代謝調節 核外遺伝子系の発現制御機構 動植物レクチンの構造と機能に関する研究 真核細胞の増殖制御機構とストレス応答 生命現象と糖鎖情報の分子科学的研究 生体膜脂質の代謝と動態 高等動物の細胞接着因子・バイオの国際動向政策	代謝生化学特論 分子遺伝学特論 糖鎖分子生物学 細胞情報特論 分子生物化学特論 生体膜代謝論 分子細胞生物学特論
-----------	-----------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------

ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
生命体科学コース	教授 石 和 貞 男 " 根 本 心 一 " 馬 場 昭 次 " 山 下 貴 司 助教授 千 葉 和 義 " 最 上 善 広 講 師 清 本 正 人 " 作 田 正 明 (未 定)	昆虫の脳行動系、生体防御系遺伝子群の進化多様性 卵成熟（減数）分裂や形態形成などの初期発生機構 細胞運動（繊毛・鞭毛運動）、機械受容 単子葉植物の構造、発生と系統 細胞・発生生物学 外界刺激に対する生体応答の可塑性の研究 海洋動物の発生生物学、形態形成と細胞分化 植物培養細胞における二次代謝調節	分子進化学 分子発生学 動物生理学特論 植物系統進化学 分子発生学 宇宙生物学特論 海洋生物学特論 形質発現植物生理学 植物相関生理学

物質科学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
相関物質科学コース	教授 太 田 隆 夫 " 富 永 靖 徳 " 藤 枝 修 子 " 益 田 祐 一 (未 定) (未 定)	相転移理論・非平衡開放系の理論 誘電体・水溶液系のラマン分光と誘電分散 非線形化学現象の計測に関する分析科学的研究 溶液内の局所構造とそのダイナミクス	非平衡物理特論 化学物理特論 非線形化学 溶液化学 磁性体特論 観測の時空尺度特論
分子科学コース	教授 永 野 肇 夫 " 平 野 恒 豊 " 福 田 豊 助教授 今 野 美 智 子 " 鷹 野 景 子 " 堀 佳 也 子 " 森 義 仁 " 山 田 眞 二	天然物化学—主としてテルペン類の合成研究 分子の構造・反応性に関する量子化学 機能性錯体の合成と反応に関する研究 X線結晶構造解析を利用した核酸と蛋白質の結合機構と生化学的反応機構の研究 分子の電子構造と化学反応の機構 液晶相形成物質の構造と性質に関する研究 複雑系反応化学・システム解析化学 有機化合物の立体構造と選択的合成反応	天然物有機化学 反応化学特論 無機化学特論 蛋白質結晶学 量子化学特論 物性物理化学特論 分離化学 有機立体化学
物理科学コース	教授 柴 田 文 明 夫 " 菅 本 晶 夫 " 浜 谷 望 夫 助教授 小 林 功 佳 " 出 口 哲 生 " 森 川 雅 博	非平衡統計力学・基礎的量子現象・量子通信理論 素粒子論・高エネルギー物理学 極限条件下の物質構造と相転移 物性理論・表面物理学 数理物理・物性基礎論・高分子統計力学 宇宙物理学	統計力学特論 素粒子特論 極限物性学特論 表面物理特論 数理物理学特論 宇宙物理学特論

数理・情報科学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
情報科学コース	教授 河 村 哲 也 " 佐 藤 浩 史 助教授 市 川 哲 彦 " 粕 川 正 充 " 藤 代 一 成 (未 定)	数値流体力学・数値シミュレーション 計算物理学・数値処理 データベース ヒューマンインターフェイス ビジュアルコンピューティング	シミュレーション科学特論 計算物理学特論 データベースマシン特論 人間機械系特論 ビジュアルコンピューティング特論 計算機言語特論
応用数理コース	教授 笠 原 勇 二 " 金 子 晃 " 竹 尾 富 貴 子 " 細 矢 治 夫 助教授 浅 本 紀 子 " 吉 田 裕 亮	確率論 偏微分方程式・トモグラフィの数理 応用解析学・作用素論 グラフ理論の化学への応用・情報化学 離散数学・文書処理系 応用解析学・作用素環論	確率解析特論 応用微分方程式特論 応用解析学特論 環境数理特論 数式処理特論 情報解析学特論

数理・情報科学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
数 学 コ ー ス	教授 塚田和美 " 藤原正彦 " 前田ミチエ " 真島秀行 " 渡辺ヒサ子 助教授 榎本陽子 " 松崎克彦 " 横川光司 (未定) (未定) (未定)	微分幾何 数 論 測度論 微分方程式論 ポテンシャル論 群論及び表現論 複素解析学 代数幾何	多様体構造特論 解析的整数論特論 実解析特論 漸近解析特論 調和解析特論 多元環構造特論 複素力学系特論 複素多様体特論 幾何構造特論 微分幾何学特論 位相構造特論

*印の教官は、平成12年3月31日付けで退官予定である。

○平成11年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
(博士前期課程) 外国人留学生募集要項

学 生 募 集 日 程 等

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9月入試	2月入試
		試験期日	試験期日
言語文化専攻	若干名	平成10年 9月2日・3日	平成11年 2月2日・3日・4日
人文学専攻	若干名		
発達社会科学専攻	若干名		
ライフサイエンス専攻	若干名		
物質科学専攻	若干名		
数理・情報科学専攻	若干名		

2. 出願期間

9月入試：平成10年8月18日～8月21日
2月入試：平成11年1月11日～1月14日

*受付時間：午前9時～11時30分，午後1時～3時

(注) 言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は9月入試は実施しない。

3. 出願資格・出願手続

各専攻の募集要項を参照すること。

4. 願書受付場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 学務課留学生係
(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

5. 選考方法・試験場所

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに調査書等の出願書類を総合して行う。
なお、詳細については各専攻の募集要項を参照すること。

6. 合格発表

9月入試：平成10年9月11日(金) 12時頃人間文化研究科棟1階に合格者の受験番号を掲示する。
2月入試：平成11年2月15日(月) "
合格通知は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上交付する。

7. 検定料・入学料・授業料

検定料：30,000円 入学料：275,000円 授業料：478,800円(年額)
(国費留学生は免除される場合があるので、国費証明書持参の上、出願の際に申し出ること。)

8. 入学手続関係書類

9月入試：平成11年3月上旬に郵送する。
2月入試：後日郵送する。

9. 注意事項

- (1)出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
(2)合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

10. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 学務課留学生係 03(5978)5143

博士前期課程の目的及び修了要件

(目的)

1. 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。
2. 博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

(修了要件)

1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 前項の場合において、博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

(進学)

本学大学院の博士前期課程を修了したものは、選考の上、博士後期課程に進学することができる。

○取得できる学位

専攻	学位	学位に付記する専攻分野の名称
言語文化専攻	修 士	人文科学 ・ 社会科学 ・ 学術
人文学専攻		人文科学・社会科学・生活科学・学術
発達社会科学専攻 発達人間科学系 生活・開発科学系		人文科学・生活科学・社会科学 理学 ・ 学術
ライフサイエンス専攻 生活科学系 生命科学系		理学 ・ 生活科学 ・ 学術
物質科学専攻		理学
数理・情報科学専攻		理学 ・ 学術

言語文化専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推薦書	研究上の指導者等の推薦書（形式随意）
4	研究計画書 （注）	1,000字以内で、留学の目的、研究予定の専攻分野、将来の計画等についてまとめたもの。（本学所定の用紙）
5	研究報告書 （注）	大学における卒業論文・卒業研究の内容を1,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙） *日本語教育コース志願者のみ
6	写真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
7	調査書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
8	健康診断書	本学所定の用紙
9	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
10	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
11	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
12	検定料	30,000円
13	検定料納付書	本学所定の用紙
14	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

（注）「4 研究計画書」及び「5 研究報告書」は、日本語で作成すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)

*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時	平成11年2月2日(火)		3日(水)・4日(木)	
	外国語試験 10:00~11:30	専門試験 13:00~15:00		
コース				
日本語文化学	英語・独語・仏語 から1か国語選択	日本語学・日本文学	日本語試験 15:30 ↓ 16:30	口述試験 10:00~
アジア言語文化学		中国語学・中国文学		
日本語教育	英語	日本語教育学・日本語文化学		
英語圏・欧州言語文化学 (英語圏言語文化専修)	英語・独語・仏語 から1か国語選択	英語・英語学及び英米文学		
英語圏・欧州言語文化学 (仏語圏言語文化専修)		仏語・仏語学及び仏文学		

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

人文学専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	卒業論文	卒業論文又はこれに代わるものが提出できない場合はその旨申し出ること。（注）
4	研究計画書	1,000字程度（日本語で作成）（本学所定の用紙）
5	写真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
6	調査書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
7	健康診断書	本学所定の用紙
8	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
9	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
10	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
11	検定料	30,000円
12	検定料納付書	本学所定の用紙
13	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

（注）音楽表現学コース志望の者で論文に代わるものとして演奏を行った者は、卒業試験演奏曲目を提出すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成11年2月2日(火)			2月3日(水)	
	外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00		口述試験 10:00~	
思想文化学		哲学または倫理学のうちから1科目を選択	日本語 15:30 } 16:30	口述試験 10:00~	
歴史文化学	英語・独語・仏語から1か国語を選択(注1)	日本史・東洋史・西洋史・美術史のうちから1科目を選択。 なお、美術史分野は専門試験に加え、英・独・仏から1か国語を課す。			
服飾文化学		服飾史および服飾美学			
舞踊・表現行動学		舞踊学			舞踊実技(舞踊の種類・演目は自由)(注2)
音楽表現学		西洋音楽史および日本音楽史から選択			音楽学:演奏実技(任意の楽器又は声、曲目は自由)を課する。 演奏学:10分程度の演奏実技(曲目は自由)を課する。 いずれの場合も、必要な場合は伴奏者を同伴すること。

(注1) 母国語も可。なお、専門科目で倫理学、日本史、美術史、舞踊学のいずれかを選択する者は外国語試験を受験しなくてよい。

(注2) 使用する音楽をカセットテープに録音し持参のこと。

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

発 達 社 会 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推 薦 書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの（形式随意）
4	卒 業 論 文	卒業論文あるいはそれに代わるもの。
5	研究報告書	2,000 字程度の概要を日本語で作成して提出すること。（本学所定用紙）
6	研究計画書	大学院における研究計画（日本語で作成）を2,000 字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
7	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
8	調 査 書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
9	健康診断書	本学所定の用紙
10	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
11	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
12	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
13	検 定 料	30,000円
14	検定料納付書	本学所定の用紙
15	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)。

*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

		平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
2月入試		平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
コース		外国語試験 10:00~12:00	専門試験 13:00~15:00	口述試験 10:00~
発達人間科学系	教育科学	英語 (辞書持ち込み可)	教育科学	
	心理学		教育心理学, 発達心理学, 認知心理学, 社会心理学の中から1科目選択	
	発達臨床学		発達臨床学	
	応用社会学		応用社会学	
	社会臨床論		臨床心理学, 教育臨床学の中から選択	
生活・開発科学系	生活政策学		6問中2問選択 内1問は必ず志望コースからの出題問題を選択すること。	
	地理環境学			
	開発・ジェンダー論			

6. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

発達人間科学系 お茶の水女子大学 文教育学部
生活・開発科学系 お茶の水女子大学 生活科学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

7. その他

本専攻は現在、東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻・理学系研究科、東京工業大学大学院、奈良女子大学大学院との間で、学生交流(単位互換)を行っている。

ライフサイエンス専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」(又は「留学」に変更できる在留資格)を有する者及び取得できる見込みの者

(注) 日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票
2	卒業証明書(卒業見込証明書)
3	写真 正面上半身(5cm×4cm)で出願前3か月以内に撮影したもの2枚を指定欄に貼付
4	調査書 本学所定の用紙(但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可)
5	健康診断書 本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書又はパスポートの写し
7	保証人届 我が国に居住する保証人(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
9	検定料 30,000円
10	検定料納付書 本学所定の用紙
11	返信用封筒 本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。(代理人可)

*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成10年9月2日(水)		
2月入試	平成11年2月2日(火)		
生活科学系	外国語 10:30~11:30 英語	専門科目 12:30~14:30 生活環境学分野の問題から選択する。	口述試験 14:45~ 卒業研究の内容及び将来の研究等について口述する。
生命科学系		口述試験 12:30~ 生命科学分野に関する卒業研究の内容及び将来の研究等について口述する。	

(注) 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

生活科学系 お茶の水女子大学 生活科学部
生命科学系 お茶の水女子大学 理学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

物質科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票 ・写真票	① 第一志望のコース名及び指導教官名は、必ず記入すること。 ② 第二志望のコース名及び指導教官名を記入することもできる。 ③ 第二志望のコースは、第一志望のコースと異なってもよい。
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したものの2枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
7	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
9	検 定 料	30,000円
10	検定料納付書	本学所定の用紙
11	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。（代理人可）

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成10年9月2日(水)		9月3日(木)
2月入試	平成11年2月2日(火)		2月3日(水)
選考	物質科学に関する 基礎科目 9:30~12:30	物質科学に関する 専門科目 13:30~15:30	口述試験 10:00~
	9問中4問選択 (各問100点)	9問中2問選択 (各問150点)	

6. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 理 学 部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

数 理 ・ 情 報 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したものの2枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙
6	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
7	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
9	検 定 料	30,000円
10	検定料納付書	本学所定の用紙
11	返信用封筒	本学所定の封筒に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。（代理人可）

* 郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成10年9月2日(水)				9月3日(木)
2月入試	平成11年2月2日(火)				2月3日(水)
選考	一般・基礎教育科目 (微積分・線形代数)	外国語 (英語)	専門科目	口述試験	口述試験 10:00~
	9:30 ~ 10:50	11:00 } 12:00	13:00 } 16:00	16:30 }	

- 注) : (1) 専門科目の試験内容: 数学コースは必修1題(位相)、選択2題
他コースは、3題選択
(2) 口述試験の時間割は試験1日目に発表する。
(3) 受験するコースと希望指導教官の所属コースが異なる場合は当該教官
または専攻長と事前に相談することが望ましい。
(4) 数学コースについては、「数A・数B・数C」の区分に関する希望順位
を記入すること。

〔数A〕教授 渡辺ヒサ子 ポテンシャル論
真島 秀行 微分方程式論
前田ミチエ 測度論
助教授 松崎 克彦 複素解析学
〔数B〕教授 藤原 正彦 数論
助教授 榎本 陽子 群論および表現論
横川 光司 代数幾何
〔数C〕教授 塚田 和美 微分幾何

5. 試験場所

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 理学部

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

○平成11年度お茶の水女子大学生活科学部 第3年次編入学学生募集要項

お茶の水女子大学生活科学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施している。
 本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍している方々のリカレント教育や、短期大学及び高等専門学校を卒業して、更に深い専門知識を求めようとする方々へ、より高度な生活科学の専門教育の機会を提供することがこの制度の趣旨です。

1. 募集人員

学 科	募集人員
生活環境学科	} 10名
人間生活学科	

2. 出願資格 次のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (3) 高等専門学校を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者
- (5) 平成11年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込みの者

3. 出願期間

平成10年10月22日（木）から平成10年10月28日（水）まで。（必着のこと）

4. 出願手続

(1) 出願書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（又は見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（郵便為替）
宛て名票	結果通知の送付に使用するので、住所・氏名を記入すること。
受験票返送用封筒	本学所定の封筒に350 円切手（速達料を含む）を貼付し、志願者の住所氏名及び郵便番号を記入すること。

(2) 出願方法

志願者は、出願書類を一括して、本学所定の封筒を用い書留速達で郵送すること。

お茶の水女子大学生活科学部事務部
 〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
 TEL 03 (5978) 5722~3

5. 選抜方法

学力検査（筆記試験）及び成績証明書等を総合して、第一次合格者を判定し、第一次合格者に面接試験を行って最終合格者を決定する。

○ 第一次試験（筆記試験）

学 科	11月11日（水）	
	試験科目	時 間
生活環境学科	英語（一般） 自然科学☆	9：30～12：00
人間生活学科	英語（一般） 人文・社会科学★	9：30～12：00

☆ 物理学、化学、生物学等に関する基礎知識

★ 人文科学、社会科学、心理学等に関する基礎知識

○ 第二次試験（面接試験） 平成10年12月2日（水）

6. 合格者の発表

- (1) 第一次試験合格発表 平成10年11月25日（水）までに、その合格者には、第一次選考合格通知書を、合格とならなかった者には、第一次選考結果通知書を送付する。
- (2) 第二次試験合格発表 平成10年12月10日（木）正午の予定。生活科学部掲示板に掲示するとともに合格者には、合格通知書を、合格とならなかった者には、結果通知書を送付する。
入学手続関係書類は、平成11年2月中旬に送付する。

注）電話等による可否の問い合わせには一切応じない。

7. 入学料及び授業料

- (1) 入 学 料 275,000 円
- (2) 授業料年額 478,800 円（改定予定額）

8. 修学条件

入学の時期は平成11年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学生活科学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士（生活科学）の学位を授与する。

9. そ の 他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、390円切手を貼った角型2号封筒(23.9 cm×33.1 cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒（切手貼付）を同封し、必ず返信先を明記すること。

人 事

○人事異動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異 動 前 の 所 属 ・ 職 名
◇ 転 任			
10. 6. 1	高 嶋 秀 介	附属図書館情報システム係長	埼玉大学附属図書館情報サービス課情報サービス係長
"	鈴 木 隆 雄	埼玉大学附属図書館情報サービス課情報サービス係長	附属図書館情報システム係長
◇ 休 職			
10. 6. 1	濱 村 知 枝	休 職 期間 平成10年8月31日	庶務課
10. 6. 24	新 井 仁 美	育児休業 期間 平成11年3月31日	附属小学校教諭
◇ 退 職			
10. 5. 10	浅 田 東 子	辞 職	文教育学部
10. 6. 30	小 西 由 子	"	庶務課
◇ 臨時的任用			
10. 6. 15	鈴 木 智 美	庶務課 任期 平成10年7月21日	
10. 6. 24	馬 場 由 子	附属小学校教諭 任期 平成11年3月31日	

◎ 外国人研究員

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 契 約				
10. 5. 2	トリン T. ミンハ	ジェンダー研究センター	10. 8. 21	

◎ 非常勤講師

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 採 用				
10. 5. 1	吉川はる奈	講 師 (生活科学部)	11. 3. 31	
10. 6. 1	パトリック・ルポール	" (文教育学部)	10. 9. 30	
"	ベアトリス・ドゥラージュ	" "	"	
◇ 併 任				
10. 5. 1	三 輪 操	講 師 (生活科学部)	10. 9. 30	農林水産省食品総合研究所上席研究官

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
10. 5. 1	大島美枝	教務補佐員 (生活科学部)	11. 3. 31	
"	前屋敷史子	" (文教育学部)	"	
"	森本泉	事務補佐員 "	"	
"	長島明嘉	" (附属図書館)	"	
"	峯岸里絵	" "	"	
"	奥山美佳	教務補佐員 (生活科学部)	"	
10. 5. 18	島田ゆう子	事務補佐員 (会計課)	"	
"	松原美和	" (大学院人間文化研究科)	"	
10. 5. 26	磯山久美子	リサーチ・アシスタント (ジェンダー研究センター)	11. 3. 25	
10. 6. 1	竹内ゆり子	教務補佐員 "	11. 3. 31	
"	栗山敦和子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	11. 2. 28	
"	坂田紀和子	" "	"	
"	加倉井美喜	" "	"	
"	飯塚菜穂子	" "	"	
"	高浜愛理	" "	"	
"	水津有理	" "	"	
"	山田未恵	" "	"	
"	田村裕美	" "	"	
"	伊藤孝恵	" "	"	
"	吉田恵理子	" "	"	
"	佐藤彩子	" "	"	
"	山田啓子	" "	"	
"	櫻井明日香	" "	"	
"	福留真紀子	" "	"	
"	玉谷直子	" "	"	
"	村上知子	" "	"	
"	秋山淳子	" "	"	
"	渥美友季子	" "	"	
"	泉水利枝子	" "	10. 9. 30	
"	塚原絵梨子	" "	11. 2. 28	
"	山下佳美子	" "	"	
"	橋本佳代子	" "	"	
"	藤岡由記	" "	"	
"	村田有津	" "	"	
"	賀内麻由子	" "	10. 9. 30	
"	松倉百子	" "	11. 2. 28	
"	巻島麻衣子	" "	10. 9. 30	
"	長谷川真里	" "	"	
"	濱中雅子	" "	"	
"	小林久美子	" "	"	
"	酒井順子	" "	10. 2. 28	
"	瀬山紀子	" "	"	
"	渡辺めぐみ	" "	"	
"	篠原乙記	" "	"	
"	浦場三砂緒	" "	10. 9. 30	
"	李環軟子	" "	"	
"	小籠寛子	" "	"	
"	谷川奈津	" "	"	
"	豊島由香	" "	"	
"	山田千波	" "	"	
"	浦島康代	" "	"	
"	龜山未帆	" "	"	
"	蔣麗華	" "	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 6. 1	深谷幸子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	10. 9. 30	
"	増田陽子	"	"	
"	山本直子	"	"	
"	伊藤幸子	"	"	
"	中谷陽子	"	"	
"	中村美穂	"	"	
"	伊田みちる	"	11. 2. 28	
"	守屋敬子	"	"	
"	笠原久美子	"	"	
"	森田美芳子	"	"	
"	宮本奈緒	"	"	
"	大野由佳理	"	"	
"	大津千賀子	"	"	
"	徳永希子	"	"	
"	梅津牧恵理	"	"	
"	安本綾子	"	"	
"	加藤藤正子	"	10. 9. 30	
"	田嶋亜紀子	"	11. 2. 28	
"	小瀬村暁子	"	10. 9. 30	
"	鼠尾まい子	"	"	
"	有馬敦子	"	"	
"	吉川美和子	"	"	
"	五十嵐篤子	"	"	
"	北島佐知子	"	"	
"	加藤藤美幸穂	"	"	
"	中山崎寛子	"	"	
"	糸野幸子	"	"	
"	小瀬榊幸子	"	"	
"	龜尾倫子	"	"	
"	大田昌美子	"	"	
"	濱川麻ゆき	"	"	
"	岩屋佳奈子	"	"	
"	楠村美浦	"	"	
"	西田友恵子	"	"	
"	小川登史子	"	11. 2. 28	
"	池田知子	"	10. 9. 30	
"	鈴木素子	"	11. 2. 28	
"	日野原優子	"	"	
"	宮原寛子	"	10. 9. 30	
"	平野玲子	リサーチ・アシスタント (生活環境研究センター)	11. 3. 31	
"	横川澄枝	" (大学院人間文化研究科)	"	
"	齋藤瑞恵	"	"	
"	関和陽子	"	"	
"	中野真理子	"	"	
"	衆田優子	"	"	
"	遠藤理佳子	"	"	
"	太田絢子	事務補佐員 (学生課)	"	
"	飯岡真季	"	"	
"	平岡真子	"	"	
"	太田真澄	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	11. 2. 28	
"	大田原眞子	"	"	
"	中島佐和子	"	"	
"	庭山千鶴	"	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 6. 1	若麻續 明里	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	11. 2. 28	
"	上村 ゆう美	"	"	
"	酒向 治子	"	"	
"	田中文 恵香	"	"	
"	新田 美由子	"	10. 9. 30	
"	根本 原雅	"	11. 2. 28	
"	土屋 葉子	"	"	
"	前屋敷 史子	"	10. 9. 30	
"	渋谷 真樹	"	11. 2. 28	
"	富士原 紀絵	"	"	
"	海藏寺 淑子	"	"	
"	小原 千夏子	"	"	
"	相良 順子	"	"	
"	高比良 美詠子	"	"	
"	田森 三佳子	"	"	
"	岩槻 恵子	"	"	
"	利根川 智子	"	"	
"	西 脩 容子	"	10. 9. 30	
"	方 仁 成子	"	11. 2. 28	
"	室 雅 子香	"	"	
"	吉村 まさみ	"	"	
"	池田 田裕子	"	"	
"	諸田 村美和子	"	"	
"	石塚 玲子の	"	"	
"	岩崎 ゆきの	"	10. 9. 30	
"	大野 初江	"	"	
"	任 恵 英子	"	11. 2. 28	
"	大室 純子	"	10. 9. 30	
"	大村 明子	"	"	
"	菅本 真紀子	"	"	
10. 6. 12	都甲 由紀子	教務補佐員 (生活科学部)	"	
◇ 配置換				
10. 6. 1	佐藤 ぬい	教務補佐員 (大学院人間文化研究科)	11. 3. 31	(生活科学部)
"	片田江 綾子	"	"	"
"	中川 英子	"	"	"
◇ 退職				
10. 5. 15	関口 伸子	教務補佐員 (生活科学部)		
10. 6. 30	吉本 千恵子	事務補佐員 (附属図書館)		

諸 報

○名誉教授の称号授与について

平成10年4月22日に下記の方に本学名誉教授の称号が授与されました。

(氏 名)	(元 官 職)
森 下 はるみ	文 教 育 学 部 教 授
加 賀 秀 夫	〃
富 田 功	理 学 部 教 授
清 水 碩	〃



森 下 はるみ 名誉教授略歴等

生年月日 昭和7年4月15日

略 歴 昭和26年3月 和歌山県立熊野高等学校卒業
 昭和31年3月 お茶の水女子大学文教育学部教育学科体育学専攻卒業
 昭和32年4月 東京大学教育学部助手
 昭和35年3月 東京大学大学院人文科学研究科体育学修士課程修了
 昭和38年3月 同 博士課程単位取得退学
 昭和38年4月 立正女子短期大学専任講師
 昭和41年4月 同 助教授
 昭和43年4月 立正女子(現、文教)大学助教授
 昭和46年4月 お茶の水女子大学助教授
 昭和56年4月 同 教授
 平成5年4月 同 附属小学校長に併任
 平成10年3月 同 停年により退職
 平成10年4月 同 名誉教授

研究業績 舞踏的・表現的動作の定量・定性的解析研究の先駆者として多くの業績を世に送り出されるときともに、幼児から高齢者までを対象とした成長、加齢にともなう運動機能や動作適応についての研究をとおして、人の健康や生涯スポーツのありかたに資する基礎資料を提供し、またその過程で多くの人材を育成された。

- 著書等
- ・舞踊における回転動作の研究(Ⅱ)～fouette en tournant について～ 体育の科学23-5 (1973) (共著)
 - ・舞踊における歩行動作の研究(Ⅱ)～すり足の筋電図および床反力～ 体育の科学29-2 (1979) (共著)
 - ・幼少期の遊びにおける移動行動の発達(3)・自閉的傾向をもつ幼児の事例報告 体育科学21 (1993) (共著)
 - ・加齢にともなう体位変換様式の変容 体育科学22 (1994) (共著)
 - ・舞踊における前後開脚系跳躍の動作特性 バイオメカニズム13 (1996) (共著)
 - ・脊柱の屈曲・伸展域の年齢推移・成長および加齢にともなう変化 体育科学25 (1997) (共著)
- その他論文、著書多数

加賀 秀 夫 名誉教授略歴等

生年月日 昭和8年3月12日

- 略 歴
- 昭和28年3月 東京都立新宿高等学校卒業
 - 昭和32年3月 東京教育大学教育学部心理学科卒業
 - 昭和34年3月 同 大学院修士課程教育学研究科実験心理学専攻修了
 - 昭和37年3月 同 大学院博士課程教育学研究科実験心理学専攻単位取得退学
 - 昭和37年3月 順天堂大学体育学部助手
 - 昭和38年3月 同 講師
 - 昭和40年3月 同 助教授
 - 昭和45年4月 同 教授
 - 昭和46年6月 同 大学院修士課程体育学研究科教授兼担
 - 昭和49年4月 筑波大学体育科学系助教授
東京教育大学体育学部・同大学院修士課程体育学研究科助教授併任
 - 昭和51年4月 筑波大学大学院修士課程体育研究科助教授兼担
 - 昭和53年2月 同 教授
 - 昭和58年4月 お茶の水女子大学文教育学部教授
 - 昭和63年10月 同 評議員に併任
 - 平成2年4月 同 大学院人間文化研究科担当
 - 平成5年4月 同 学生部長に併任
 - 平成10年3月 同 停年により退職
 - 平成10年4月 同 名誉教授

研究実績 一流選手の心理学的諸特性の解明とその診断法の開発、スポーツ選手の精神的自己コントロール法に関する研究等を通じて、実証科学としてのスポーツ心理学の成立・発展に寄与した。さらに、生涯スポーツを重視し、発育期から中高年期に至る発達諸段階におけるスポーツ参加のあり方やその心理的効果を研究すると共に、旧来の鍛練主義・精神主義・勝利至上主義等を排する立場からの啓蒙と指導者養成に努め、広い視野を持つ今日的スポーツ観の現場への普及とそれに基づく指導の実践に多大の影響を与えた。

- 論文等
- 「発育期のスポーツ活動が心身に及ぼす影響・第1報」昭和52年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1977 (共著)
 - 「発育期のスポーツ活動が心身に及ぼす影響・第2報」昭和53年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1978 (共著)
 - 「発育期のスポーツ活動が心身に及ぼす影響・第3報」昭和54年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1979 (共著)

「発育期のスポーツ活動が心身に及ぼす影響・第4報」昭和55年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1980（共著）

「スポーツ選手の心理的適性に関する研究・第1、2報」昭和55年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1980（共著）

「スポーツ選手の心理的適性に関する研究・第3報」昭和56年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1981（共著）

「スポーツ選手の心理的適性に関する研究・第4報」昭和57年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1982（共著）

「スポーツ選手のメンタルマネジメントに関する研究・第1報」昭和60年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1985（共著）

「スポーツ選手のメンタルマネジメントに関する研究・第2報」昭和61年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1986（共著）

「スポーツ選手のメンタルマネジメントに関する研究・第3報」昭和62年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1987（共著）

「中高年者のスポーツ参加に関する社会学的・心理学的研究・第1報」平成3年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1992（共著）

「中高年者のスポーツ参加に関する社会学的・心理学的研究・第2報」平成4年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1993（共著）

「青少年のスポーツ参加に関する研究・第1報」平成5年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1994（共著）

「青少年のスポーツ参加に関する研究・第2報」平成6年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1995（共著）

「青少年のスポーツ参加に関する研究・第3報」平成7年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、1996（共著）

その他論文、著書多数

富田 功 名誉教授略歴等

生年月日 昭和8年1月14日

略 歴	昭和31年3月	東京大学理学部化学科卒業
	昭和33年3月	同 大学院化学系研究科修士課程修了
	昭和33年4月	同 理学部化学科助手
	昭和39年6月	理学博士（東京大学）
	昭和43年4月	東京教育大学理学部助教授
	昭和52年4月	筑波大学化学系助教授
	昭和53年8月	東京水産大学水産学部教授
	昭和61年4月	お茶の水女子大学理学部教授
		同 大学院理学研究科担当
	昭和61年7月	同 大学院人間文化研究科担当
	平成2年4月	
		同 評議員併任
	平成5年9月	
	平成10年3月	同 理学部停年退官
	平成10年4月	同 名誉教授

研究業績 ホストゲスト反応、特に無機イオン交換体をホストとするインターカレーション反応、マルチトレーサーを用いるイオン交換反応などを中心に、顕著な成果をあげられた。

研究業績 「植物の老化に伴うクロロフィル分解機構」を一貫した研究テーマとされました。その内容はクロロフィル分解反応そのものにとどまらず、クロロフィル分解を誘発する植物内の生理的変化を多角度から解析され、国際的にも高く評価されている業績を残されました。

論文等 Metabolism of chlorophyll in higher plants. VI. Involvement of peroxidase in chlorophyll degradation. (with M.Kato)
Plant Cell Physiol. 26, 1291-1301 (1985) .
Metabolism of chlorophyll in higher plants. VII. Chlorophyll degradation in senescing tobacco leaves. (with M. Kato)
Can. J. Bot. 65, 729-735 (1987) .
Lipid peroxidation by the [peroxidase/H₂O₂/phenolic] system. (with A. Niinomi)
Plant Cell Physiol. 28, 731-734 (1988) .
Changes in the activity of 3-deoxy-D-arabino-heptulosonate 7-phosphate (DHAP) synthase in suspension cultured cells of *Vitis*. (with N. Yamada and M. Sakuta)
Physiol. Plant. 94, 591-596 (1995)
Purification and characterization of a cytosolic isozyme of 3-deoxy-D-arabino-heptulosonate 7-phosphate synthase from cultured carrot cells. (with N. Suzuki and M. Sakuta)
J. Plant Physiol. 149, 19-22 (1996) .

著書等 植物生理学(改訂版)裳華房(平成5年10月)
その他論文、著書多数

○研 修

名 称	実施日時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成10年度国立学校等幹部職員研修(課長級)	平成10年5月12日 ～ 5月15日	平成9年度の本研修実施後に新たに国立学校等の課長又は課長相当職(事務長を除く。)に就任した者	庶務課長 田中 正幸 学務課長 井深 順二 入学主幹 棚木 紀雄	文 部 省
第38回関東甲信越地区国立大学等 厚生指導職員研修会	平成10年6月23日 ～ 6月26日	関東甲信越地区及び東京地区国立大学等の厚生指導職員で、原則として係長、主任又はこれに準ずる者で、当該大学等から推薦された者	文教育学部・総務 係 高荷 敏之	文部省、千葉大学及び関東甲信越地区大学厚生指導協議会

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
文教育学部・ 助教授	三浦 徹	シリア・アラブ 共和国	アラブ都市に関する国際会議出席及び歴史資料調査	10. 5.19～ 10. 6. 4	海外研修
理学部・教授	福田 豊	オーストリア共和国	機能性金属錯体の創製についての共同研究打合せ	10. 5.23～ 10. 5.30	外国出張
文教育学部・ 教授	徳丸 吉彦	中華人民共和国	ガーランド世界音楽事典編集委員会出席	10. 5.28～ 10. 6. 1	海外研修
文教育学部・ 講師	水村 真由美	アメリカ合衆国	アメリカスポーツ医学会における研究発表及び学会出席	10. 5.29～ 10. 6. 8	海外研修
文教育学部・ 教授	長友 和彦	フィリピン共和国	専門である第二言語としての日本語の習得研究	10. 6. 1～ 10.11.29 (帰国予定)	外国出張
理学部・助手	塚本 るみ	アメリカ合衆国	第3回国際分子昆虫科学学会大会に参加	10. 6. 5～ 10. 6.13	海外研修
文教育学部・ 教授	石黒 節子	中華人民共和国	舞踊公演及び上海市舞踏学校との交流のための打合せ	10. 6.16～ 10. 6.19	外国出張
人間文化研究科 ・助教授	田辺 新一	カナダ・ アメリカ合衆国	米国暖房冷凍空調学会温熱環境基準作成委員会に出席及び研究打合せ	10. 6.20～ 10. 6.28	外国出張
理学部・教授	竹尾 富貴子	ドイツ連邦共和国	「発展方程式と半群に関するワークショップ」に参加	10. 6.28～ 10. 7.12 (帰国予定)	外国出張
人間文化研究科 ・教授	河村 哲也	フランス共和国・ 連合王国	第16回流体力学における数値計算法に関する国際会議出席並びにピエール・マリーキュリー大学数値解析研究所及びノッチングム大学機械工学科での研究打合せ	10. 6.29～ 10. 7.15 (帰国予定)	外国出張
人間文化研究科 ・助教授	坂元 章	スイス連邦	国際ISSBD-98大会出席及び研究打合せ	10. 6.29～ 10. 7. 8 (帰国予定)	外国出張
理学部・助教授	松崎 克彦	アメリカ合衆国	日本学術振興会海外特別研究員として「クライン群と双曲多様体」の研究	9.10.13～ 10.10.12 (10.6.28～ 10.7.13 一時帰国として日程変更)	外国出張

○平成10年度科学研究費補助金配分決定一覽

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
特定領域研究 (A)(2)		理学部教授	菅本晶夫	2,000	CP保存に関する諸問題： バリオン非対称性、Bの破壊、Wの3 点関数を中心として
〃		理学部教授	細矢治夫	1,800	メゾスコピック領域でのベンゼノイド 及び非ベンゼノイド縮合多環系の電子 論
〃		理学部教授	福田豊	1,500	多座架橋配位子による多核錯体の合成 構造、物性、反応
〃		理学部助教授	千葉和義	1,800	ヒトデ卵母細胞の1-メチルアデニン 情報伝達系
〃		理学部助教授	千葉和義	1,700	細胞内プロテアーゼ活性のin vivo, real time 測定法
基盤研究(A)(1)	一般	生活科学部教授	本間清一	1,400	食生活における健康人の少量アルコール 摂取の評価
基盤研究(A)(2)	〃	理学部教授	金子晃	8,500	数理物理学における諸問題の研究
〃	〃	人間文化研究科教授	富永靖徳	2,800	水の動的構造と緩和モードの超低振動 数ラマン分光による研究
〃	展開	理学部教授	福田豊	1,000	複合的・高機能金属錯体の創製とそれ らの基礎・応用物性
基盤研究(B)(1)	一般	文教育学部助教授	熊谷圭知	1,900	第三世界の地域像の再構築と地誌記述 の革新
〃	〃	文教育学部教授	天野正子	1,900	ジェンダーの視点に立ったライフスタ イルの変容を促す学習に関する研究 —青年期に焦点をあてて
基盤研究(B)(2)	一般	理学部教授	益田祐一	1,500	NMR緩和法による超高速化学反応速 度の決定—分子内電子移動反応の場合
〃	〃	生活環境研究センター教授	五十嵐脩	800	脂質及び必須脂肪酸代謝に及ぼす各種 食事性因子の調節機構の解明
〃	〃	生活科学部教授	田中辰明	500	付設温室を持つ半地下室の居住性並び に住まい方に関する研究
〃	〃	理学部教授	真島秀行	3,400	合流超幾何微分加群に関する研究
〃	〃	理学部助教授	小林功佳	900	走査トンネル顕微鏡による表面内部ナ ノ構造研究のための理論的基礎
〃	〃	生活科学部助教授	松浦秀治	1,900	ジャワ島サンブンマチャン出土人類脛 骨の年代学的研究

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
基盤研究(B)(2)	一般	生活科学部教授	畑江敬子	1,600	栄養性、嗜好性を含む多次元解析による野菜の品質評価指標の構築
〃	〃	理学部助教授	林正男	2,000	細胞接着分子インテグリンの遺伝子発現調節
〃	〃	理学部教授	浜谷望	10,700	四面体分子結晶の圧力誘起アモルファス化・超伝導転移・分子解離機構の解明
〃	〃	生活科学部教授	無藤隆	2,800	保育における身体知の獲得過程
〃	展開	人間文化研究科教授	河村哲也	1,900	数値流体力学的アプローチによる地震災害解析システムの開発
〃	〃	人間文化研究科助教授	伊藤美奈子	3,000	地域と学校とを結ぶメンタル・フレンド制度の開発及び実用化のための実践的研究
〃	〃	生活環境研究センター教授	倉田忠男	8,300	抗酸化・抗ストレスビタミンによる生活習慣病予防型食習慣の確立
基盤研究(C)(1)	一般	文教育学部教授	市古夏生	1,200	幕末より明治期にいたる出版機構の総合的研究
基盤研究(C)(2)	〃	文教育学部助教授	永原恵三	200	ソールリズムからみた日本の音楽文化形成
〃	〃	文教育学部助教授	清水徹郎	500	英国ルネサンスにおけるオヴィディアニズムの研究
〃	〃	理学部教授	菅本晶夫	500	CPを破る素粒子模型とバリオン生成
〃	〃	人間文化研究科教授	河村哲也	400	砂丘移動現象の解明と植生利用による制御
〃	〃	文教育学部助教授	石口彰	800	効率分析による視覚脳内表現とオブジェクト認知の検討
〃	〃	文教育学部教授	耳塚寛明	500	メリトクラシーとジェンダー・バイアスー女性の社会的地位の実験的測定を中心にー
〃	〃	文教育学部助教授	駒込武	500	植民地支配下台湾・朝鮮におけるイギリス・アメリカ・カナダ長老教会の伝道と教育
〃	〃	理学部教授	竹尾富貴子	700	非線形解析学と力学系の研究
〃	〃	理学部教授	渡辺ヒサ子	1,000	クライン群の変形理論

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
基盤研究(C)(2)	一般	人間文化研究科教授	伊藤厚子	900	複雑な競合スピン系の相転移と観測の時空尺度依存の性質
"	"	理学部助教授	今井正幸	500	一次相転移の誘導期間における秩序形成の解明
"	"	人間文化研究科教授	佐藤浩史	500	反応性プラズマのための電子-多原子分子散乱および熱対流運動のシミュレーション
"	"	理学部教授	藤枝修子	800	非線形化学反応の微小重力場における振動挙動追跡の高精度化
"	"	生活環境研究センター教授	倉田忠男	1,100	L-アスコルビン酸の抗酸化機能と生理効果
"	"	生活科学部教授	駒城素子	1,300	環境負荷と被洗物の損傷劣化を抑えた洗浄方式の研究
"	"	生活科学部助教授	大塚恵	600	オリーブ油の長期摂取に対する栄養評価
"	"	生活科学部講師	柴坂寿子	700	保育における人間関係の変容
"	"	生活科学部助教授	久保田紀久枝	800	調理過程における香辛料成分の動態と活性評価
"	"	生活科学部助手	山野春子	700	紫外線遮蔽加工製品の人体に対する効果の生化学的・免疫化学的測定
"	"	文教育学部助教授	本田郁子	700	東北地方における地域伝統芸能の表現技法の伝承と再開発
"	"	理学部助教授	藤代一成	1,400	情報発掘のための次世代可視化システムの開発
"	"	人間文化研究科助教授	小川温子	1,300	血漿ビトロネクチンのスルファチド結合性の解析と脳ビトロネクチンの検索
"	"	文教育学部教授	秋山光文	2,100	東南アジア彫刻史上におけるドヴァーラヴァティー様式の成立と展開に関する基礎研究
"	"	文教育学部教授	上野浩道	900	意識的イメージと無意識的イメージの生成過程とそれらが創造性に及ぼす影響について
"	"	文教育学部助教授	竹村和子	1,000	セクシュアリティの理論構築および、その文学/映像表象の実証研究
"	"	理学部助教授	榎本陽子	600	主ブロックの加群カテゴリーがブラウアーカテゴリーにどの程度支配されるか

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
基盤研究(C)(?)	一般	理学部教授	笠原 勇二	800	Fractional Brownian motion の研究
"	"	理学部助教授	山田 眞二	1,600	ねじれ型アミドの軸不斉を用いる遠隔立体制御
"	"	理学部教授	松浦 悦子	2,700	ショウジョウバエミトコンドリアDNAのArt-rich領域の機能に関する研究
"	"	理学部教授	芦原 坦	3,000	植物のプリンアルカロイド代謝の局在性と調節機構
"	"	人間文化研究科教授	馬場 昭次	2,100	精子運動開始過程の解析による鞭毛運動機構要素の分離
"	"	生活科学部助手	香西 みどり	2,900	高圧処理による野菜の硬化の機構の解明と硬さの制御の最適化
"	"	人間文化研究科助教授	村田 容常	1,400	遺伝子組み換え植物性食品の指標としてのタンパク質発現の解析
"	"	理学部助教授	市川 哲彦	2,300	可視化ソフトウェアによるマルチメディアデータ検索関数および述語設計環境の開発
萌芽的研究		人間文化研究科助手	松下 みどり	1,200	非文字資料にもとづく中世日本仏教の思想史的研究
"		人間文化研究科教授	春日 喬	900	MUDの利用が対人不安傾向に及ぼす影響に関する研究
"		理学部教授	真島 秀行	800	光学の数理解析学的研究
"		理学部教授	石和 貞男	1,200	ショウジョウバエセクロピン遺伝子群におけるアンドロピン遺伝子の分子進化学的研究
"		理学部助教授	小林 哲幸	1,100	細胞のストレス応答に関する新規脂質性メディエーターの解析
奨励研究(A)		人間文化研究科助教授	坂元 章	800	テレビゲーム使用が人間の攻撃性に及ぼす影響に関する実験研究
"		人間文化研究科助教授	伊藤 美奈子	1,000	教育相談係・養護教諭による学校相談活動の現状と連携・研修をめぐる今後の課題
"		理学部助教授	横川 光司	1,100	整数環上の非可換ホッジ理論
"		文教育学部講師	新名 謙二	500	地理学的手法を応用したスポーツ施設経営戦略決定支援システムの開発に関する研究

研究種目	審査区分	研究代表者 所属・職名	氏名	決定額 (千円)	研究課題
奨励研究(A)		理学部助手	小島京子	1,100	アネキシンIVとVのレクチン活性と細胞外分泌に関わるドメインの解析
”		理学部助教授	千葉和義	1,400	蛍光偏光度測定による細胞内蛋白質リン酸化反応の可視化
”		文教育学部助教授	酒井朗	700	小学校から中学校への移行における生徒の不応に關する教育臨床学的エスノグラフィー —学校文化の差異に注目して—
”		文教育学部助教授	菅聡子	700	読書行為を視座とした明治期における小説の流通と受容についての研究
”		理学部助手	河本充司	1,200	分子性機能物質の核磁気共鳴による研究
”		理学部助手	塚本るみ	1,100	ショウジョウバエを主とした嗅覚レセプター遺伝子の分子進化遺伝学的研究
”		文教育学部講師	水村真由美	1,300	トレーニング効果を最大にするトレーニング方法の開発
”		理学部助教授	佐藤一郎	1,000	モバイルエージェントのための資源共有アルゴリズムの設計と実装

○平成10年度科学研究費補助金配分決定一覧（特別研究員奨励費）

所属部局・職	氏名	決定額 (千円)	研究課題
人間文化研究科・特別研究員	村尾 祐美子	900	労働市場における男女の差異化と社会階層への影響
人間文化研究科・特別研究員	高比良 美詠子	900	抑うつ生起の認知過程：hopelessness（絶望感）の果たす役割
人間文化研究科・特別研究員	蛭川 立	1,200	人間の性行動・性文化に関する比較行動学的研究
人間文化研究科・特別研究員	村田 夏子	800	文学教材の読解過程に関する情報处理的アプローチ
人間文化研究科・特別研究員	守山 実花	800	13世紀のステンド・グラスにおける聖書主題の叙述手法
人間文化研究科・特別研究員	吉原 雅子	400	主として内包的文脈における言語の機能についての研究
人間文化研究科・特別研究員	青木 真由美	900	超対称性模型を用いた電弱相転移における宇宙のバリオン生成
人間文化研究科・特別研究員	佐藤 恭子	900	超高压力下における分子性結晶の非晶質化・金属化・分子解離機構
人間文化研究科・特別研究員	藤井 美保子	900	コミュニケーションにおける身振りの役割：言語・認知機能の発達が身振りに及ぼす影響
人間文化研究科・特別研究員	坂元 桂	900	抑うつ者の潜在記憶バイアスに関する研究
人間文化研究科・特別研究員	吉田 道代	600	ヴェトナム難民女性の定住化における政策的対応の日豪比較
人間文化研究科・特別研究員	桑田 直子	900	1920-30年代日本の女子中等教育機関における洋装制服の普及過程
人間文化研究科・特別研究員	小塩 さとみ	700	長唄の音楽構造 - 「見えない理論」のモデル化
人間文化研究科・特別研究員	篠原 桂子	1,400	初期言語発達過程を支える喃語と身体運動の発達の関連
人間文化研究科・特別研究員	波照間 永子	1,200	琉球舞踊における上肢動作の特性
人間文化研究科・特別研究員	弓削 尚子	800	ドイツ啓蒙主義と人類学的関心
人間文化研究科・特別研究員	森 津太子	1,200	対人知覚における文脈効果とその統制可能性の検討
人間文化研究科・特別研究員	門吉 朋子	900	超対称性理論の双対性を用いたクオークポテンシャルの研究
人間文化研究科・特別研究員	中力 えり	900	ヨーロッパ統合と国境地域アルザスにおける「地域語」教育運動
人間文化研究科・特別研究員	暢 素梅	500	『論語』の受容を通して見た東アジア世界 - 日本を中心として -

所 属 部 局 ・ 職	氏 名	決 定 額 (千円)	研 究 課 題
人間文化研究科・特別研究員	山 腰 京 子	900	生成文法理論に基づく、移動（疑問詞移動とかき混ぜ）の第一言語習得研究
人間文化研究科・特別研究員	伊 部 規 子	900	外国への援助に関する社会心理学的研究
人間文化研究科・特別研究員	福 丸 由 佳	400	成人期における多重役割と心理的健康度について
人間文化研究科・特別研究員	洪 江 美	900	Bメソン物理を用いた標準模型とそれを越える理論の探求
人間文化研究科・特別研究員	道 信 良 子	500	北タイにおける女性工場労働者のAIDS認識とセクシュアリティの形成過程

○平成10年度お茶の水女子大学公開講座のご案内

1. 講座名 「高齢期の新たな生き方を求めて」

講座のねらい

誰もが直面する「老い」。人間を含めて、なぜ生物は、「老いるのか」。また、「老い」をどのように考えるか、どのように生きるかあるいは生きられるのかは、それぞれの時代や社会とは無縁ではありません。今日、「老い」は否定的イメージでしばしばとらえられ、またそのようなイメージが作り出されています。しかし、そうでしょうか。

多様な人生の数だけ、高齢期の生き方も多様であり、個性的なはずです。高齢者の長い人生に蓄えられた豊かな生き方が、生かされるような社会の創造こそが求められます。高齢期のころ、身体、人間関係、コミュニケーションなどについて、問い直し、新たな生き方の創造を共に考えてみませんか。ライフスタイルで成熟の段階にある高齢期の生きがいの探索でもあります。

2. 講師

プロフィール

お茶の水女子大学
生活科学部 教授
榎木 満生

1938年栃木県生まれ。東京教育大学理学部卒、ミシガン州立大学大学院（教育心理）卒業（MA）、1992年医学博士（自治医大）、臨床心理士、日本カウンセリング学会認定カウンセラー。
人生は生涯発達の見地から、生きる意味を求める人達のカウンセラーとして思春期、青年期から老年期までの相談に当たっている。

お茶の水女子大学
名誉教授
清水 碩

1932年神戸生まれ。日本専売公社中央研究所を経て、本年3月までお茶の水女子大学。専門は植物生理学。研究テーマは植物の老化の際のクロロフィル分解の仕組み。

お茶の水女子大学
生活科学部 教授
袖井 孝子

国際基督教大学、カリフォルニア大学大学院、東京都立大学大学院で学び、淑徳短期大学、東京都老人総合研究所を経て、お茶の水女子大学へ。専門は家族社会学、老年学。

お茶の水女子大学
文教育学部 教授
天野 正子

1938年生まれ。おばあちゃん子だった。お茶の水女子大、東京教育大学大学院で社会学を学ぶ。千葉大学文学部を経て、お茶大へ。この世界の、根源的な多元性の共存のなかから新しい思想が生まれるのだと思い、ネットワーク論やジェンダー論などに関心をもつ。

東京都老人総合研究所
副所長
柴田 博

1937年生まれ。1965年北海道大学医学部卒業。
1972年東京都養育院付属病院勤務（現東京都老人医療センター）。
1982年東京都老人総合研究所勤務。1993年同研究所副所長。現在に至る。

お茶の水女子大学
文教育学部 教授
小川 剛

1934年東京生まれ。高校卒業後、労働者としての体験を含めて、まわり道をして1960年東京大学教育学部卒業。自分の体験から大学・大学院で社会教育学専攻。現在文京区生涯学習推進協議会会長。

お茶の水女子大学
文教育学部 助教授
杉山 進

1949年静岡県生まれ。東京教育大学体育学部卒業。同大学院修了。専門は、体育原理・スポーツ哲学。現代スポーツを多角的に考える。

お茶の水女子大学
生活科学部 助教授
伊藤美奈子

大阪生まれ。京都大学文学部国文学科を卒業後、高等学校で教鞭を執った後、同大学大学院教育学研究科(臨床教育学専攻)を修了。南山大学文学部講師を経て、1997年より現職。専門は学校臨床と青年期以降の発達(人格形成)。

お茶の水女子大学
学長
佐藤 保

1934年新潟県長岡市に生まれる。東京大学文学部、同大学院で中国文学を専攻。中国古典史(旧詩)の研究を主として行い、併せて明治初期の日本漢詩壇と中国詩人の文化交流の実態を調査している。

お茶の水女子大学
生活科学部 教授
糸原 康隆

1946年生まれ。東京大学教育学部を卒業。発達心理学部の立場から、幼児教育や家庭・学校教育の問題を考えている。人間の生活を基本に据えた心理学・教育学を構想したい。

3. 日程・講義内容

9月19日(土) 13:30-15:00 榎木 満生	「老年期の心理」 「としをとる」と言うことの意味を身体的変化と精神的変化とを結び付けて考え、老いを自覚したときの精神状態について考える。さらにいきいきとした老後過ごすためにはどのような条件が必要なのかを考え、老年期だからこそできる自己表現をめざす。
	15:10-16:40 清水 碩 「植物の老化」 植物の老化の進行は、紅葉や落葉としてはっきりと目にする事ができる。紅葉や落葉の仕組みの研究から、植物の老化についてどのようなことが明らかになったのだろうか。またそこから何を学ぶことができるか。
9月26日(土) 13:30-15:00 袖井 孝子	「老いと家族」 老後は子や孫に囲まれて暮らすのが、かつての日本人の生き方であった。しかし今日、三世帯世帯は減少し、夫婦のみ世帯やひとり暮らし世帯が増加している。依存から自立へという高齢者像の変化に伴って、老年期の家族関係はどのように変わってきたのだろうか。
	15:10-16:40 天野 正子 「老いの万華鏡—小説に読む—」 戦後刊行された小説やエッセイのなかに、自分にとっての「老いて何?」という問いに対するメッセージをさらに国家や社会に対する老いていく人たちの声なき声をくみとり、そこから隠された「老い」にかたちを与える試みをしたと思います。
10月 3日(土) 13:30-15:00 柴田 博	「元気に長生きの食生活」 高齢者に大切なことは、元気に生きがいをもって長生きをすることである。病気を予防する手立てのみではその目的は達成出来ない。老化を予防するための食生活は、動物性たんぱく質や油脂が不足しないこと、そして何よりも、美味しく食事を楽しむことが肝要である。
	15:10-16:40 小川 剛 「高齢者と学び」 「高齢者の学び」には、大きく二つの側面がある。一つは純粋な意味での学び、これを通して、独自の文化を創造していく。他は「知的な鏡」をとるための学び、これは生涯にわたって輝きつづけるための学び。

10月17日(土) 13:30-15:00 杉山 進	「老いとスポーツ活動」 中高年スポーツ活動の現状から今後の課題を考える。
15:10-16:40 伊藤美奈子	「人生への問い直しと成熟」 成人期以降の発達、青年期までの量的変化(成長)とは異なり、質的变化(成熟)としてとらえられることが多い。年齢を重ねるにつれ、身体的な減退や将来展望が狭くなる一方で、人間としての知恵が深まり人生を楽しむ余裕も出てくる。人生の問い直し作業が求められる中高年期の心理に焦点づけながら、人間の成熟の意味を考えてみたい。
10月24日(土) 13:30-15:00 佐藤 保	「中国人と老い」 「不老長命」は人類の見果てぬ夢である。国家や時代が異なっても、いつまでも若々しく健康でありたいと願うのは、人類共通の夢である。その夢の実現に向けて苦心惨憺、多くの試行錯誤を重ねながら、結果として人々は学術・文化・芸術を豊かなものに発展させてきた。長い歴史と伝統をもつ中国人の「老い」と「不老長命」についての考えを、主として古典文学の中から探ってみよう。
15:10-16:40 無藤 隆	「老人期の生き方を支えるもの」 歳を取ってもいかにして生き生きと生きるか。好奇心を持って柔軟に生きたい。そのためには、歳を取ったことによる負担を出来る限り得に変えていきたい。そのための条件を探ろう。

4. 受講資格

社会人を対象として、学歴、資格、性別を問いません。
(社会人を対象としていますが、学生の方の受講も可能です。)

5. 募集人員

150名

6. 受講料

6,400円(5日間で)

7. 会場

お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室

8. 受講申込方法

- ①受付状況テレホンサービスで受付状況を確認。
- ②同封の「受講申込書」はがきを郵送。
- ③郵便局で同封の「郵便振替用紙」にて受講料を振り込む。

※受付状況は、03-5978-2556(テレホンサービス)で、ご案内しています。
定員を超えた場合は、お断りすることもありますので、あらかじめご了承ください。
※受講料振り込みの確認をもって、手続き完了とさせていただきます。
(振り込みの確認に数日要しますので、余裕をもってお振り込み願います。)
※受講許可書等の送付はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
※一度納入された受講料は、お返しできません。

9. 受講申込期限

平成10年9月10日(木)

10. その他

受講された方には、受講証明書を交付します。

○就職情報資料室の開設について

情報化社会におけるインターネットによる就職情報に対応するため、学生部内に『就職情報資料室』を開設した。

平成10年6月2日（火）、佐藤学長、橋本事務局長、五十嵐学生部長及び関係教職員の出席のもと開設式を行った。



就職情報資料室の前にて

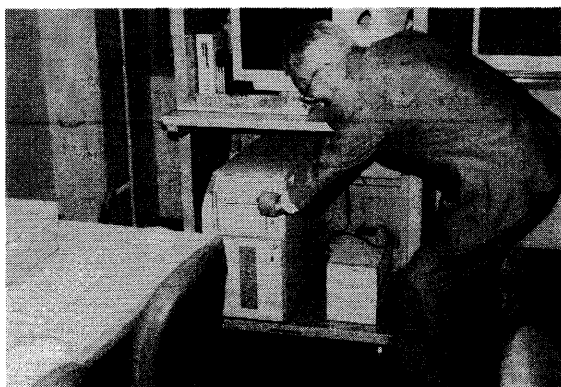
○生活科学部情報処理教室火入れ式について

生活科学部では、この度、待望の情報処理教室が完成いたしました。

そこで、平成10年5月27日（月）に佐藤学長、小林生活科学部長、橋本事務局長、関係教官及び職員をお招きし、情報処理教室の火入れ式を行いました。

情報処理教室には、パソコン端末30台が設置され、授業及びメールアドレスの配布を受けた学生で連日賑わっていて、教育的効果が大きいと期待できそうです。

下記の写真は、学長によるサーバーの火入れ式の模様と、整然と並べられたパソコン端末の様子です。



学長によるサーバーの火入れ式



パソコン端末

○平成10年度福利厚生事業スケジュール

職員の皆様から、平成10年度レクリエーション行事（学内事業）のアンケートのご協力をいただきありがとうございました。

アンケートの集計結果、昨年までの実施状況等をふまえ、下記の年間福利厚生事業スケジュールを計画しましたので、奮って参加くださるようご案内します。

なお、行事によっては、実施日時等が未定となっておりますが、各行事の具体的な実施については、各行事の実施の都度、改めて通知します。

また、都合により、行事等の計画が変更されることがありますので、ご了解願います。

	平成10年度福利厚生事業スケジュール	実施期間	実施場所
7月	ソフトボール大会	7/21 (22日予備日)	大学グラウンド
8月			
9月			
10月	歌舞伎鑑賞券配布	10/10, 11, 18, 24, 25	国立劇場
	ボウリング大会	下旬予定	都内近郊ボウリング場
	一般定期健康診断(第1回)	中旬予定	保健管理センター
11月	バドミントン大会	上旬予定	学内
	ミュージカル鑑賞券配布	(4公演日予定)	都内近郊施設
	一般定期健康診断(第2回)	中旬予定	保健管理センター
12月	卓球大会	未定	学内
	映画鑑賞券配布	(4上映日予定)	都内近郊映画館
	VDT検診	中旬又は下旬予定	学内
1月	観劇鑑賞券配布	(4公演日予定)	都内近郊施設
2月			
3月	麻雀大会	未定	学内
年	東京ディズニーランド・メンバーシップカード 発行	随時受付	東京ディズニーランド
	百貨店利用割引証 発行	随時受付	指定店(西武他7店)
	自動車整備優待券 発行	随時受付	近郊指定整備工場
間	東京交響楽団 割引入場券 紹介	各人申込みによる	東京近郊会場
	ジャパン・アーツ 各種割引入場券 紹介	各人申込みによる	東京近郊会場
	光藍社 各種割引入場券 紹介	各人申込みによる	東京近郊会場

日 誌

◇諸会議

- 5月7日(木) カリキュラム委員会
 8日(金) 課長会議
 文教育学部教務関係事項検討委員会
 11日(月) 留学生専門委員会
 12日(火) 部局長会議
 主任会議
 13日(水) 教授会
 14日(木) 大学資料委員会小委員会
 15日(金) 学生委員会
 19日(火) 自己点検・評価検討委員会小委員会
 20日(水) 生活科学部情報委員会
 文教育学部教務関係事項検討委員会
 博士後期課程運営委員会
 代議員会
 共用体育施設運営委員会
 22日(金) 学芸員課程委員会
 入試電算処理専門委員会
 26日(火) 部局長会議
 予算委員会
 27日(水) 評議会
 施設計画委員会
 附属学校教育研究委員会
 廃棄物処理・再利用に関する検討委員会
 29日(金) 事務連絡協議会
 6月1日(月) 自己点検・評価検討委員会小委員会
 2日(火) 部局長会議
 主任会議(生活)
 主任会議(文教・理)
 3日(水) 教授会
 4日(木) 理学部R I実験室運営委員会
 8日(月) 課長会議
 理学部附属臨海実験所運営委員会
 9日(火) 拡大部局長会議
 部局長会議
 10日(水) 博士後期課程運営委員会
 代議員会
 評議会
 12日(金) ジェンダー研究センター運営委員会
 事務連絡協議会
 入学者選抜方法研究委員会
 16日(火) 附属学校委員会
 広報就職専門委員会
 17日(水) 附属図書館運営委員会

- 組織の英訳に関する検討会
 大学資料委員会小委員会
 自己点検・評価検討委員会小委員会
 19日(金) ジェンダー研究センター運営委員会
 23日(火) 理学部入学者選抜方法検討委員会
 24日(水) 池田摩耶子・重記念奨学金審査委員会
 入学試験委員会
 附属学校教育研究委員会
 25日(木) 理学部PR委員会
 組織の英訳に関する検討会
 29日(月) レクリエーション運営委員会
 7月1日(水) 自己点検・評価検討委員会
 課長会議
 3日(金) SCS事業運営委員会
 学生委員会
 7日(火) 生活環境研究センター運営委員会
 部局長会議
 創立120周年記念事業特別委員会
 主任会議
 8日(水) 教授会
 13日(月) 部局長会議
 国際交流委員会
 親和会役員会
 15日(水) 文教育学部入試方法検討委員会
 博士後期課程運営委員会
 代議員会
 評議会
 附属学校教育研究委員会
 廃棄物処理・再利用に関する検討委員会
 17日(金) 事務連絡協議会
 21日(火) 大学資料委員会
 22日(水) 自己点検・評価検討委員会小委員会

◇行事等

- 5月6日(火) 国立8大学理学部事務長会議
 (~8日、於・奈良女子大学)
 7日(水) 東京都清掃局立ち入り検査
 技術課管内施設整備事務連絡会議
 事務職員特別研修
 11日(月) 大学入試センター試験実施方法に関する協議会(13:30~、於・大学入

	試センター)		
12日(火)	国立学校等幹部職員研修(課長級) (～15日、於・オリセン)	5日(金)	国立大学協会理事会(13:00～、於・ 学士会館) 国立大学国際交流担当課長等会議 (於・東京医科歯科大学)
14日(木)	事務職員特別研修	7日(日)	附属中学校体育大会
15日(金)	国立大学協会常務理事会(13:00～、 於・国立大学協会) 国立大学入学者選抜方法研究連絡協 議会(関東ブロック協議会)(13:00 ～、於・千葉大学) 国立大学事務局長会議(13:30～、 於・三田共用会議所)	8日(月)	理学部第3年次編入学願書受付(～ 12日) 就職問題懇談会(10:00～、於・東 海大学校友会館)
18日(月)	学生の定期健康診断(～21日) 名誉教授称号授与式 名誉教授懇談会	10日(水)	大学プール使用開始
20日(水)	文部省共済組合主管課長会議 (13:30～、於・南青山会館)	11日(木)	国立大学教養教育担当組織協議会 (～12日、於・福島大学) 事務職員特別研修
21日(木)	国立学校等経理部課長会議(～22日、 於・東京医科歯科大学) 事務職員特別研修	15日(月)	人文・社会科学系学長会議(於・如 水会館)
22日(金)	東京地区国立大学体育大会委員会 (於・東京工業大学)	16日(火)	国立大学協会総会(～17日、於・学 士会館)
25日(月)	DCN支援システム説明会(於・東 京オペラシティビル) 献血(～26日) 大学セミナーハウス理事会・評議会 (14:00～、於・アイビーホール青学 会館)	18日(木)	留学生交流研究協議会(～19日、於・ 宇都宮大学) 国立大学長会議(於・学士会館) 事務職員特別研修
26日(火)	国立大学附属図書館事務部課長会議 (於・東京医科歯科大学)	19日(金)	国立大学協会事務連絡会議(於・学 士会館)
27日(水)	国立学校労務専掌職員協議会 (～29日、於・富士研修所) 生活科学部情報処理室火入れ式	23日(火)	国立大学図書館協議会総会(～25日、 於・鹿児島大学) 関東ブロック国立大学等厚生補導職 員研修会(～26日、於・千葉大学) 男女共同参画推進連携会議(於・総 理大臣官邸ホール)
28日(木)	国立大学施設担当部課長会議 (～29日、於・東京医科歯科大学) 事務職員特別研修	24日(水)	外国人留学生懇談会
29日(金)	大学入学者選抜・教務関係事項連 絡協議会(於・国立教育会館)	25日(木)	国立大学入試担当課長連絡協議会 (～26日、於・埼玉大学) 事務職員特別研修
30日(土)	附属高等学校体育祭	27日(土)	お茶の水同窓連絡会総会
31日(日)	開学記念日 附属小学校運動会	7月1日(水)	理学部3年次編入学試験
6月2日(火)	就職情報資料室開設	3日(金)	退職準備プログラム等担当者講習会 (於・中央合同庁舎) 国立大学協会創立50周年記念事業委 員会(於・国立大学協会) えせ同和行為対策東京連絡会(於・ 合同庁舎) 茶水会総会(於・茗溪会館)
3日(水)	国立大学入学者選抜研究連絡協議会 (～5日、於・大阪国際交流センター) 国立大学等学生部次課長会議(於・ 東京医科歯科大学)	4日(土)	小石川寮消防訓練
4日(木)	国立学校及び施設等機関等庶務部課 長会議(～5日、於・東京医科歯科 大学) 事務職員特別研修	7日(火)	第2回学生定期健康診断(於・保健 管理センター) 人事関係文部省ヒアリング (10:00～、於・文部省)
		8日(水)	次期附属図書館長候補者選挙 概算要求文部省ヒアリング(於・文

- 部省)
- 9日(木) 理学部第3年次編入学試験合格発表
- 10日(金) 概算要求文部省ヒアリング(於・文部省)
- 11日(土) 国際学生宿舎消防訓練
- 14日(火) 国立大学長・事務局長会議(於・オリセン)
- 15日(水) 厚生補導研究協議会(～17日、於・国立青少年センター)
- 16日(木) 中長期の就職採用問題研究会(於・東海大学校友会館)
- 20日(月) 大学見学会
- 21日(火) 国立大学協会第三常置委員会(於・国立大学協会)
職員ソフトボール大会
- 23日(木) 前学期末試験(～29日)
関東C地区国立学校事務情報化推進協議会(於・新潟大学)
関東ブロック国立大学長会議(於・オリセン)
- 24日(金) 事務職員特別研修単位認定試験(於・放送大学東京第二学習センター)
- 25日(土) 桜蔭会 総会(於・桜蔭会)
- 27日(月) 女子差別撤廃委員会報告会(えがりて)(於・日本学術会議)
- 28日(火) 国立大学協会理事会(於・東海大学校友会館)
- 30日(木) 学校図書館司書教諭講習(～8月20日)
文科系・体育系サークルリーダーズ研修
- 31日(金) 第16回天城学長会議